

令和 6 年度

読谷村教育委員会事務点検・評価報告書

令和 7 年 9 月

読谷村教育委員会

## は じ め に

平素より本村の教育行政にご理解とご協力を賜り、感謝を申し上げます。

さて、令和2年度より全世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、令和6年度には感染者数が大幅に減少し、収束の兆しが見られるようになりました。これに伴い、経済活動や日常生活も落ち着きを取り戻し、各種教育活動においても活発に行われるようになりました。

そのような中、昨年、令和6年度から令和10年度までを計画期間とする「第2次読谷村教育振興基本計画」を策定いたしました。本計画の基本理念は「ちむ<sup>ちゅ</sup>清らさあるひと<sup>ひ</sup>の学び<sup>う</sup>育ち<sup>ぬまな</sup>」とし、新たに「希望ある未来を切り拓き生涯学び続けるひとづくり」を基本目標として掲げております。

この基本計画に基づき、「学校・家庭・地域・教育行政」がこれまで以上に連携を深め、子どもたちに豊かな心、健やかな体、確かな学力の定着等、バランスよく育むことを通じて、調和のとれた「生きる力」を身につけさせ、志高く未来を切り拓いていける人づくりを目指してまいります。

また、すべての村民が生涯学習やスポーツを通して、生きがいのある心豊かな生活を送ることができるよう、さまざまな教育施策に取り組んでおります。

令和6年度においても、基本目標の実現に向けて、

- ・基本方針1 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実
- ・基本方針2 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり
- ・基本方針3 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり

という3つの基本方針のもと、各種事業に取り組んでまいりました。

教育委員会事務点検評価報告書につきましては、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行状況について、毎年、点検・評価を行い、その結果を報告書として取りまとめることが法律によって義務付けられています。

報告書の作成にあたっては、令和6年度に実施した各種事業について、担当課による点検を実施するとともに、客観性を確保するという観点から、教育に関する学識経験を有する方々のご意見をいただき、点検・評価報告書をまとめております。

本報告書が、学校現場はもとより各家庭や地域社会においても広く活用され、心身ともに健全な読谷村民の育成に寄与することを期待しております。

令和7年9月  
読谷村教育委員会  
教育長 知花 優

## 目 次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| はじめに                             | 1  |
| ● 事務点検・評価制度                      | 3  |
| ● 施策の体系                          | 5  |
| 1 読谷村ゆたさむらビジョン（教育行政関係抜粋）         | 5  |
| 2 読谷村教育振興基本計画                    | 6  |
| ● 点検評価結果                         | 7  |
| 令和6年度事務点検評価事業一覧                  | 8  |
| 1 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実           | 10 |
| 1) 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上           | 10 |
| 3) 健やかな体の育成                      | 21 |
| 4) 多様なニーズに対応した教育支援の充実            | 24 |
| 2 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 30 |
| 1) 生涯学習の充実                       | 30 |
| 2) 生涯スポーツの推進                     | 40 |
| 3) 地域文化の継承・創造・発展                 | 48 |
| 3 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり        | 67 |
| 1) 健全な青少年の育成                     | 67 |
| 2) 地域とともにある信頼される学校づくりの推進         | 73 |
| 3) 新しい時代を展望した教育行政の充実             | 76 |
| 4 物価高騰対策関連事業                     | 77 |

## ●事務点検・評価制度

### 1 趣旨

全ての教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに公表することとされています。

読谷村教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たすために、令和6年度における村教育委員会の事務管理及び執行状況について、学識経験者のご意見をいただき、事務事業の点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

### 2 点検・評価の対象

点検及び評価の対象は、読谷村ゆたさむらビジョンにおける教育施策に関する事業及び読谷村教育振興基本計画に掲げる施策を実施するための事業から重点課題事項として位置づけられた事業としています。

### 3 点検・評価の実施方法

(1) 点検及び評価にあたっては、事業の進捗状況等を明らかにし、自己評価を行うとともに、課題等を分析し、今後の対応策を示しております。

(2) 自己評価については、その成果について下記の4段階で評価しました。

| レベル | 評価内容                          |
|-----|-------------------------------|
| A   | 計画を上回る成果があった。                 |
| B   | 計画どおりの成果があった。                 |
| C   | 計画どおりに実施したが、計画どおりの成果には至らなかった。 |
| D   | 計画どおりに実施できなかった。               |

(3) 点検・評価の客観性を確保するために、教育に関し学識経験を有する外部の方々（学識経験者）の様々なご意見、ご助言をいただきました。ご意見をいただいた方々は、次のとおりです。

| 学識経験者   | 経歴等               |
|---------|-------------------|
| 比 嘉 達   | 元中学校校長、元学校指導課課長   |
| 我如古 清 秀 | 社会教育委員会議議長、元小学校教頭 |

#### 4 点検・評価結果の構成

##### (1) 施策名

読谷村ゆたさむらビジョンにおける教育行政関連施策及び読谷村教育振興基本計画3施策に係る51事業ごとに点検評価を行っています。

##### (2) 事業概要

各事業の概要及び目標を掲げています。

##### (3) 令和6年度取組内容

各事業の目標達成に向けて、令和6年度に取り組む予定とした内容(計画)を記載しています。

##### (4) 令和6年度取組状況

各事業の令和6年度取組状況について、その成果を記載しています。

##### (5) 自己評価

令和6年度の取組(計画から成果)の状況について、分析を行い、自己評価した内容を記載しています。

##### (6) 課題

令和6年度の実施状況を踏まえ、今後の取り組みを進める上での課題を記載しています。

##### (7) 次年度以降の取組内容(課題対応)

令和6年度実施に基づく課題を踏まえ、課題解決を行うための今後の対応策について記載をしています。

##### (8) 学識経験者からの意見

学識経験者の方々から頂いたご意見等について記載しています。

●施策の体系

1 読谷村ゆたさむらビジョン（教育行政関係抜粋）

基本目標 ゆたさある<sup>ふんし</sup>風水 <sup>まさ</sup>優る肝心 <sup>さちふくるはな</sup>咲き誇る文化ど <sup>うむあわ</sup>想い合ち

| 基本施策                                                                                        | 施策の方針         | 施策の展開                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|------------------------------------------------------------------|
| <p>②<br/>（夢を育み生涯輝けるひとづくり）<br/>ちむ清<sup>ぢゆ</sup>らさあるひと<sup>ひとうぬまな</sup>の学<sup>すだ</sup>び育ち</p> | (1) 子ども子育ての推進 | ①保育・幼児教育環境と学童保育の充実<br>②子ども子育て地域支援ネットワークの構築<br>③笑顔あふれる家庭環境づくり     |
|                                                                                             | (2) 子どもの教育の充実 | ①「生きる力」を育む教育環境・学習活動の推進<br>②安全・安心な教育環境の充実<br>③地域と学校が連携した学び場づくりの推進 |
|                                                                                             | (3) 地域文化の創造発展 | ①地域文化の継承・発展<br>②読谷の歴史・文化・芸術・自然の発信                                |
|                                                                                             | (4) 生涯学習の充実   | ①誰でも学べる環境づくりの推進<br>②地域を担う人材育成の推進                                 |
|                                                                                             | (5) スポーツの推進   | ①スポーツ環境の充実<br>②スポーツに触れる機会の創出                                     |

## 2 読谷村教育振興基本計画

基本理念 ちむ<sup>ちゅ</sup>清らさあるひと<sup>ひとう</sup>の学び育ち<sup>ぬまなすだ</sup>

～ 希望ある未来を切り拓き生涯学び続けるひとづくり ～

| 基本方針                                  | 基本施策                     | 具体施策                                                                                   |
|---------------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>「子どもの幸福を実現する「学び」の充実」             | 1) 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上   | ①幼児教育と「架け橋期」の充実<br>②児童生徒の学びの質の向上                                                       |
|                                       | 2) 豊かな心を培う教育の推進          | ①本村の特性を活かした平和を希求する心の育成<br>②いじめの予防対策・対応の充実                                              |
|                                       | 3) 健やかな体の育成              | ①運動に親しむ環境づくりと体力の向上<br>②望ましい食習慣・生活習慣の確立                                                 |
|                                       | 4) 多様なニーズに対応した教育支援の充実    | ①特別支援教育の充実<br>②帰国・外国籍児童生徒への教育支援<br>③子どもの貧困対策の推進                                        |
| 2<br>「子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり」 | 1) 生涯学習の充実               | ①生涯学習の推進体制の充実<br>②村民の学習ニーズに応える学習機会と活動支援の充実<br>③活動拠点の充実・活用促進<br>④読書活動の推進                |
|                                       | 2) 生涯スポーツの推進             | ①健康づくりと生涯スポーツの普及推進<br>②スポーツ指導者・スポーツ団体の育成<br>③スポーツ環境の充実                                 |
|                                       | 3) 地域文化の継承・創造・発展         | ①文化財の保存・活用<br>②伝統芸能等の保存・継承<br>③郷土に関する資料の収集・保存・活用<br>④郷土文化や芸術に触れる場の充実                   |
| 3<br>「地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり」        | 1) 健全な青少年の育成             | ①各種体験活動、リーダー育成の充実<br>②教育相談・不登校対応の充実<br>③読谷村青少年健全育成連絡協議会の充実                             |
|                                       | 2) 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 | ①学校・家庭・地域の連携強化<br>②学校施設・設備の充実<br>③教員の働き方改革の推進<br>④教職員の資質・能力の向上<br>⑤危機管理対策の充実による学校安全の推進 |
|                                       | 3) 新しい時代を展望した教育行政の充実     | ①家庭・地域の教育力の向上<br>②教育委員会の充実                                                             |

## ●点検・評価結果

令和6年度教育委員会事務点検評価事業一覧表

| 基本方針                             | 基本施策                | 事務事業名称                | 評価 | 頁  |
|----------------------------------|---------------------|-----------------------|----|----|
| 1 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実           | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 | 預かり保育事業               | B  | 10 |
|                                  |                     | 学力向上推進事業              | B  | 11 |
|                                  |                     | 校内自立支援室事業             | B  | 12 |
|                                  |                     | 小学校 ICT 環境整備事業        | B  | 13 |
|                                  |                     | 小学校学習支援員配置事業          | B  | 14 |
|                                  |                     | 小学校教育振興事務運営事業         | B  | 15 |
|                                  |                     | 中学校学習支援員配置事業          | B  | 16 |
|                                  |                     | 中学校教育振興事務運営事業         | B  | 17 |
|                                  |                     | 中学生海外ホームステイ派遣事業       | B  | 18 |
|                                  |                     | 中学校 ICT 環境整備事業        | B  | 19 |
|                                  |                     | 幼稚園教育支援員配置事業          | B  | 20 |
|                                  | 健やかな体の育成            | 児童生徒の地域クラブ等活動応援基金積立事業 | B  | 21 |
|                                  |                     | 給食調理場管理運営事業           | B  | 22 |
|                                  |                     | 給食調理場運営事業（読谷・読谷第二）    | B  | 23 |
|                                  | 多様なニーズに対応した教育支援の充実  | 特別支援教育支援員配置事業         | B  | 24 |
|                                  |                     | 特別支援教育推進事業            | B  | 26 |
|                                  |                     | 小中学校特別支援補助事業          | B  | 28 |
|                                  |                     | 小中学校就学援助事業            | B  | 29 |
| 2 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実             | 生涯学習事務運営事業            | B  | 30 |
|                                  |                     | まなびフェスタ事業             | B  | 31 |
|                                  |                     | 社会教育関係指導者育成事業         | B  | 32 |
|                                  |                     | 図書館運営事業               | B  | 33 |
|                                  |                     | ふれあい交流館自主事業           | B  | 35 |
|                                  |                     | 文化センター施設管理運営事業        | B  | 37 |
|                                  |                     | 鳳ホール事務運営事業            | B  | 38 |
|                                  |                     | 学習等供用施設改修事業           | B  | 39 |
|                                  | 生涯スポーツの推進           | 後援団体育成事業              | B  | 40 |
|                                  |                     | 各種スポーツ教室運営事業          | B  | 41 |
|                                  |                     | 各種スポーツ大会運営事業          | B  | 42 |
|                                  |                     | 体育施設運営事業              | B  | 44 |
|                                  |                     | 屋内運動場整備事業             | B  | 46 |
|                                  |                     | 残波岬ボールパーク機能強化事業       | B  | 47 |

令和6年度教育委員会事務点検評価事業一覧表（前頁からの続き）

| 基本方針                             | 基本施策                  | 事務事業名称            | 評価 | 頁  |
|----------------------------------|-----------------------|-------------------|----|----|
| 2 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展         | 村内遺跡発掘調査事業        | B  | 48 |
|                                  |                       | 歴史資料整理活用事業        | B  | 50 |
|                                  |                       | 陶芸研修所運営事業         | B  | 52 |
|                                  |                       | 子ども文化育成事業         | B  | 54 |
|                                  |                       | 鳳ホール自主事業          | B  | 56 |
|                                  |                       | 博物館展示事業           | B  | 58 |
|                                  |                       | 博物館教育普及事業         | C  | 60 |
|                                  |                       | 博物館管理運営事業         | B  | 62 |
|                                  |                       | 沖縄語保存継承事業         | A  | 64 |
|                                  |                       | フィールドミュージアム整備活用事業 | B  | 66 |
| 3 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり        | 健全な青少年の育成             | 青少年センター事務運営事業     | B  | 67 |
|                                  |                       | 地域学校協働活動推進事業      | B  | 69 |
|                                  |                       | 放課後子ども教室推進事業      | B  | 71 |
|                                  |                       | 村子ども会交流事業         | C  | 72 |
|                                  | 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 | 古堅南小学校校舎新增改築事業    | B  | 73 |
|                                  |                       | 古堅小学校校舎新增改築事業     | D  | 74 |
|                                  |                       | 中学校校舎等維持補修事業      | B  | 75 |
|                                  | 新しい時代を展望した教育行政の充実     | 家庭教育相談支援事業        | B  | 76 |
| 物価高騰対策関連事業                       |                       | 学校給食食材費物価高騰支援事業   | B  | 77 |

1 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実

1) 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 1 | 事業名             | 預かり保育事業              | 決算書 P. 261          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 50,327,685 円    |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子ども子育ての推進           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                  |                                                                                                                                                                                          |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 幼稚園教育課程に係る教育時間の終了後や、長期休業期間中に在園する園児を対象に預かり保育を実施し、保護者の子育てを支援する。                                                                                                                            |
| 令和6年度取組内容（計画）    | 就労や介護、通院など、様々な理由により午前の幼稚園教育課程終了後も保育を必要とする保護者の負担を軽減するため、村立幼稚園において午後の預かり保育事業を実施する。                                                                                                         |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 預かり保育利用人数計 252 名（89%）<br>内訳 渡慶次幼 37 名（88%）読谷幼 74 名（85%）喜名幼 37 名（90%）<br>古堅幼 50 名（86%）古堅南幼 54 名（98%）<br>村立幼稚園 5 園に預かり保育士を合計 12 名配置した。さらに、令和6年度も預かり保育ヘルパーを合計 5 名配置し、特別な配慮を必要とする園児への支援を行った。 |
| 自己評価             | B 計画どおりの成果があった。<br>預かり保育士 12 名と預かり保育ヘルパーを各園に 1 名ずつ配置し、特別な配慮を必要とする園児への支援や、子育て支援及び保護者の就労支援を行うことができた。                                                                                       |
| 課題               | ・ 預かり保育事業にかかる安定的な人材の確保                                                                                                                                                                   |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | ・ 多様な媒体を活用し、預かり保育士、日々雇用保育士及び預かり保育ヘルパーの安定的な確保に努める。                                                                                                                                        |

|            |                                                                                                                                                                                |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 利用率が高い園は 98%、低い園でも 85%、全体平均でも 89%を超える極めてニーズの高い事業である。人材確保に課題がある中、保育士、保育ヘルパーを例年以上に配置し、預かり保育の充実、保護者の子育て支援を行うことが出来たことを評価する。今後の課題は安定的な人材の確保である。対象支援ヘルパーの声も踏まえて人材確保のための工夫につなげてもらいたい。 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 2 | 事業名             | 学力向上推進事業             | 決算書 P. 265          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 4,996,282 円     |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                               |  |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要                     | 学力向上推進計画に則り、読谷村学力向上推進協議会と連携し、幼児、児童及び生徒、一人ひとりの「確かな学力」を向上させ「生きる力」を育む。                                                                                                                                |                                                                                                               |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | <ul style="list-style-type: none"><li>・読谷村学力向上推進協議会に補助金交付</li><li>・村研究指定校として古堅中学校を設定し、組織的なキャリア教育の推進</li><li>・ICT機器の効果的な活用の推進</li><li>・村立中学校2年生を対象とした教育の日講演会の実施</li></ul>                           |                                                                                                               |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | <ul style="list-style-type: none"><li>・各幼稚園小中学校が、学力向上推進の目標に沿った実践を実施することができた。</li><li>・各学校において創意工夫をこらし、児童生徒にとって学びの原動力となるような講演会や体験活動等を実施することでキャリア教育の充実につなげることができた。</li></ul>                         |                                                                                                               |  |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                                                  | 計画どおりの成果があった。                                                                                                 |  |
|                          |                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>・学力向上推進実践報告をオンデマンド配信で行うことにより、各学校の研究内容や取組をより多くの教職員に共有することができた。</li></ul> |  |
| 課題                       | <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT機器を活用した児童生徒の個別最適な学習の工夫や、授業と連動した自主学習の取り組み</li></ul>                                                                                                       |                                                                                                               |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT機器を活用した先進校における個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けての取り組み実践例を紹介する。</li><li>・新しい端末機器の操作研修やICT支援員による授業支援や研修支援を行う。</li><li>・各専門部の研修において、主体的な学びを実現するためにも授業改革に取り組む。</li></ul> |                                                                                                               |  |

|            |                                                                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 「確かな学力の向上」は本村学校教育の大きな課題である。各学校において課題を共有し、キャリア教育の推進やICT機器を活用した授業改善に全力で取り組んでいることを評価する。今後は、児童生徒一人ひとりの自学自習力を育み更なる学力の向上につながることを期待する。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 3 | 事業名             | 校内自立支援室事業            | 決算書 P. 271          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 6,297,197 円     |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                  |                                                                                                          |               |  |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--|
| 事業概要             | 不登校児童生徒及び登校できるが教室に入れない児童生徒に対し、個々の状況に応じた学習支援を行う等、多様な学習の機会を確保し、児童生徒の社会的自立を促す。                              |               |  |
| 令和6年度取組内容（計画）    | 中学校2校へ校内自立支援員を配置し、学級担任等と連携を行いながら、校内自立支援室を利用する生徒個々の状況に応じた学習支援等を行う。                                        |               |  |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 校内自立支援員2名配置（読谷中学校、古堅中学校）<br>支援人数（延べ2,025名）<br>・支援対象人数52名（うち支援室を利用した人数48名）<br>・学級で授業を受けることができたようになった人数17名 |               |  |
| 自己評価             | B                                                                                                        | 計画どおりの成果があった。 |  |
|                  | 両中学校に校内自立支援員を1名ずつ配置したことにより、利用する生徒個々の状況に応じた学習支援等を行うことができた。                                                |               |  |
| 課題               | ・夏休み後の登校支援<br>・自立支援室における ICT 活用支援                                                                        |               |  |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | ・生徒の心の状態に合わせ、長い2学期もスモールアップで教室復帰できるよう、継続して登校できる環境づくりに力を注ぐ。<br>・学習者用端末の活用について検討する。                         |               |  |

|            |                                                                                                                                                     |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 本事業は、不登校生徒及び教室で授業が受けられない生徒に対する教育支援事業である。両中学校に校内自立支援員を1名ずつ配置したことにより、支援を受けることができた生徒が48名という成果は評価できる。今後も生徒の気持ちに寄り添いながらスモールアップで教室復帰(自立)できる生徒が増えることを期待する。 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 4 | 事業名             | 小学校 ICT 環境整備事業       | 決算書 P. 285          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 658,460 円       |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                         |               |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 「わかりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成」を図るため、ICT 関連の機器を教室や授業に取り入れて活用できる教育環境を整備する。 |               |
| 令和 6 年度<br>取組内容<br>(計画)  | ・ ICT 関連機器の購入を行い、教育環境を整備する。                                             |               |
| 令和 6 年度<br>取組状況<br>(成果)  | ・ ICT 関連機器の購入<br>小学校 1 校（液晶ディスプレイ）<br>小学校 1 校（無線 LAN 整備）                |               |
| 自己評価                     | B                                                                       | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | ・液晶ディスプレイの購入や無線 LAN の整備により、ICT に係る、教育環境整備を行うことができた。                     |               |
| 課題                       | ・ GIGA スクール構想に伴う第 2 期学習者用端末の更新整備                                        |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 令和 8 年度からの GIGA スクール構想第 2 期学習者用端末の計画的な入れ替えに向けて、予算確保に努める。                |               |

|            |                                                                                                                                                              |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| 学識経験者からの意見 | 本事業は、ICT 関連機器の購入を行い、ICT 教育環境整備を図り「わかりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成」を図る。関連機器の購入を行い、無線 LAN の整備を完了したことを評価する。今後は、GIGA スクール構想に伴う第 2 期学習者用端末の入れ替えに向けて、計画的な予算確保に努めて頂きたい。 |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 5 | 事業名             | 小学校学習支援員配置事業         | 決算書 P. 285          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 16,158,978 円    |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                |               |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 児童の基礎・基本の定着、学力の向上を図ることや個々の児童に応じたきめ細やかな学習支援を行うため、小学校5校に1名ずつ学習支援員を配置し、児童の基礎・基本の定着、学力の向上を図る。                                                                                                                                                                      |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 全学年の児童を対象に小学校5校へ学習支援員を1名ずつ配置し、児童の学習意欲の向上と基礎学力定着への支援を行う。                                                                                                                                                                                                        |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | <div>・小学校5校へ学習支援員を1名ずつ配置し、各学校において課題が見られる学年への学習支援を行うことができた。</div> <div>令和6年度 学びのたしかめ 算数の平均正答率</div> <div>・4学年 53.3% (県：52.8% 中頭：50.9%)</div> <div>・5学年 37.3% (県：38.9%、中頭：36.7%)</div> <div>令和6年度 県到達度調査 算数の平均正答率</div> <div>・6学年 53.5% (県：55.6%、中頭：55.3%)</div> |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                                                                                                              | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | ・学習支援員を配置することにより、個々の児童の能力に応じてきめ細やかな学習支援を行うことができた。                                                                                                                                                                                                              |               |
| 課題                       | <div>・対象児童の学習内容の理解や、学習意欲向上を図るための継続的な支援</div> <div>・きめ細やかな学習支援員に係る研修の充実</div>                                                                                                                                                                                   |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | <div>・きめ細かな学習支援を行うため、学習支援員と教職員との密な連携を図る。</div> <div>・研修内容の更なる充実を図る。</div>                                                                                                                                                                                      |               |

|            |                                                                                                                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | <p>本事業の自己評価として、学習支援員を配置することにより、個々の児童の能力に応じてきめ細やかな学習支援を行うことができたとある。しかし「学びのたしかめ」「県到達度調査」の算数の平均正答率が4学年をのぞき依然として県平均を下回っているのも事実である。各学校において課題を整理し、教科担任と協働した学習支援員の効果的な活用で算数の学力が伸びることを期待する。</p> |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 6 | 事業名             | 小学校教育振興事務運営事業        | 決算書 P. 285          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 14,514,362 円    |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                                      |               |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 村立5小学校における教材用備品の購入等や、県外大会派遣などに係る支援を行い、小学校の教育振興及び教育環境の充実を図る。                          |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | ・校務用パソコンのリース管理<br>・教材用備品、楽器備品の購入<br>・県外大会派遣費補助金の交付                                   |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | ・教材用備品購入29品目（電子天秤、電子ミシン等）<br>・楽器備品購入9品目（譜面台等）<br>・県外大会派遣費補助金交付1件<br>・校務用パソコンのリース管理5校 |               |
| 自己評価                     | B                                                                                    | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | ・必要な教材用備品、楽器備品を計画どおり整備することができた。<br>・理科教材備品については、補助事業を活用し、観察・実験を重視した重点設備を整備することができた。  |               |
| 課題                       | ・学習環境の計画的整備<br>・計画的な教材用備品購入のための各小学校との連携                                              |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | ・各小学校からの教材用備品購入計画書を基に、補助事業等を活用し、継続して教育環境の整備に努める。                                     |               |

|            |                                                                                                      |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 必要な教材用備品、楽器備品等を計画どおり整備することができたことを評価する。児童の学習活動を充実させるためには、教材教具、校務用パソコンの充実は必須であることから、本事業の継続的な充実発展を期待する。 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 7 | 事業名             | 中学校学習支援員配置事業         | 決算書 P. 297          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 6,947,861 円     |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                                                                                                       |                                                              |  |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要                     | 特に学習内容の理解・習得に個人差があらわれる数学の教科を学習する中学校1年生を主な対象として、生徒の基礎・基本の定着、学力の向上を図ることや個々の生徒の能力に応じたきめ細やかな学習支援を行うため、中学校2校に1名ずつ学習支援員を配置し、生徒の基礎・基本の定着と学力の向上を図る。           |                                                              |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | ・ 中学校2校へ学習支援員を1名ずつ配置する。                                                                                                                               |                                                              |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | ・ 各中学校に1名の学習支援員を配置することができた。<br>・ 個に応じた学習支援を行うことで、つまずきが見られる生徒の学習の定着と学習意欲の向上につなげることができた。<br>R6年度沖縄県学力到達度調査結果<br>・ 中1 数学平均正答率 25.7% (県平均 28.1% 中頭 24.4%) |                                                              |  |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                     | 計画どおりの成果があった。                                                |  |
|                          |                                                                                                                                                       | ・ 学習支援員を配置することにより、個々の生徒の能力に応じてきめ細やかな学習支援を行うことができた。           |  |
| 課題                       |                                                                                                                                                       | ・ 対象生徒の学習内容の理解や学習意欲向上を図るための継続的な学習支援<br>・ きめ細やかな学習支援員に係る研修の充実 |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) |                                                                                                                                                       | ・ きめ細かな学習支援を行うため、学習支援員と教職員との密な連携を図る。<br>・ 研修内容の充実を図る。        |  |

|            |                                                                                                                                                                                   |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 数学は、抽象的な思考力を求める学習教材も多く、つまずく生徒も見られ個人差も大きくなる教科である。そのために、早い段階から個に応じたきめ細かな学習支援が肝要であることから中1に支援員を配置したことを評価する。一方、県の平均に達していないという課題については各学校において課題を分析し、教科担任と協働した学習支援員の効果的な活用で学力が伸びることを期待する。 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 8 | 事業名             | 中学校教育振興事務運営事業        | 決算書 P. 299          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 11,804,722 円    |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                                                     |               |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 村立2中学校の教材用備品購入等や県内外大会派遣などに係る支援を行い、各中学校の教育振興及び教育環境の充実を図る。                                            |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | ・校務用パソコンのリース管理<br>・教材用備品の購入<br>・県内外大会派遣費補助金の交付                                                      |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | ・教材用備品購入15品目（誘導コイル、見てわかる体積説明器等）<br>・県内外大会派遣費補助金交付15件                                                |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                   | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | ・必要な教材用備品を計画どおり整備することができた。<br>・理科教材備品については、補助事業を活用し、観察・実験を重視した重点設備を整備することができた。                      |               |
| 課題                       | ・計画的な学習環境の整備<br>・計画的な教材用備品充足に係る両中学校との連携<br>・迅速に大会派遣費補助金を交付するため、申請に係る中学校との諸手続きの連携                    |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | ・継続した学習環境整備のため、両中学校からの教材用備品購入計画書に基づき、補助事業等を活用して対応に努める。<br>・県内外大会派遣費補助金に係る申請手続きを迅速に行うため、中学校との連携に努める。 |               |

|            |                                                                                                                                                         |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 学校教材は、生徒の教育効果を高め、学習理解を助ける上で極めて重要であり、その充実は学校教育に不可欠である。本事業で、教材備品購入 15 品目、県内外大会派遣費補助金交付を 15 件と事業を完了したことは評価できる。購入した備品が有効活用されること、大会派遣が生徒の健全育成の後押しになることを期待する。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |                 |                      |                     |
|---|-----------------|----------------------|---------------------|
| 9 | 事業名             | 中学生海外ホームステイ派遣事業      | 決算書 P. 299          |
|   | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 7,778,540 円     |
|   | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|   | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                                                |                                                                                                                   |  |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要                     | 創造性、国際性に富み社会に貢献する人材の育成を図るため、本村在住の中学生を英語圏へ派遣する。                                                 |                                                                                                                   |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | ・村内在住中学生の海外派遣実施及び費用補助を行う。<br>・派遣人数の増員（予定人員：15名）と経済的理由で応募が厳しい世帯に対しての研修費全額補助<br>・派遣終了後における報告会の開催 |                                                                                                                   |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | ・海外ホームステイ派遣15名（内 準要保護世帯2名）<br>・令和6年10月17日 報告会開催                                                |                                                                                                                   |  |
| 自己評価                     | B                                                                                              | 計画どおりの成果があった。                                                                                                     |  |
|                          |                                                                                                | ・15名の上限に対して31名の申込があったが、計画どおりに選考することができた。<br>・派遣人数の増員と経済的理由で応募が厳しい世帯に対し、研修費を全額補助することで、経済格差をなくし、人材育成支援の充実を図ることができた。 |  |
| 課題                       |                                                                                                | ・安全性が高く、文化や教育を学ぶのに相応しい派遣先を広く検討する。                                                                                 |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） |                                                                                                | ・国際的な社会情勢等も踏まえて、旅行会社と確認し検討する。                                                                                     |  |

|            |                                                                                                                                                         |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 本事業は、英語圏へ中学生海外派遣実施と費用補助を行うものである。英語圏の家族との生活体験を行うことにより、世界観を広げる効果のある教育である。今年度より人員を15名に増員したことや、経済的理由で応募が厳しい世帯に研修費の全額補助を行う取り組みは生徒の可能性を広げる支援の充実につながったと捉え評価する。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                      |                     |
|----|-----------------|----------------------|---------------------|
| 10 | 事業名             | 中学校 ICT 環境整備事業       | 決算書 P. 301          |
|    | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 73,365,600 円    |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                        |               |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 「わかりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成」を図るため、ICT 関連機器を教室や授業に取り入れて活用できる教育環境を整備する。 |               |
| 令和 6 年度<br>取組内容<br>(計画)  | ・ ICT 関連機器の購入を行い、教育環境を整備する。                                            |               |
| 令和 6 年度<br>取組状況<br>(成果)  | ・ 機器の老朽化に伴う教材用備品の購入<br>電子黒板の整備 77 台 内訳：読谷中 46 台/古堅中 31 台               |               |
| 自己評価                     | B                                                                      | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | 機器の老朽化に伴う教材用備品である電子黒板の購入について、学校と連携を行い計画的に教育環境の整備を行うことができた。             |               |
| 課題                       | ・ GIGA スクール構想に伴う GIGA 端末の更新整備                                          |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | ・ GIGA スクール第 2 期学習者用端末の入れ替え整備を行う。                                      |               |

|            |                                                                                                                                                         |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 本事業は、ICT 関連機器を教室や授業に取り入れて活用できる教育環境の整備を図り「わかりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成」を図る。両中学校へ電子黒板 77 台を整備完了したことを評価する。今後は、GIGA スクール第 2 期学習者用端末の入れ替え整備がスムーズに行われることを期待する。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                      |                     |
|----|-----------------|----------------------|---------------------|
| 11 | 事業名             | 幼稚園教育支援員配置事業         | 決算書 P. 303          |
|    | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 17,961,704 円    |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子ども子育ての推進           |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 資質・能力を基盤とした確かな学力の向上 |

|                          |                                                                                                              |               |  |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--|
| 事業概要                     | 幼稚園 5 園に 1 名ずつ教育支援員を配置し、早朝から登園する在園児を受け入れ、子育て支援及び保護者の就労支援を行うとともに担任のサポートなど日常の保育の中できめ細やかな教育支援を行う。               |               |  |
| 令和 6 年度<br>取組内容<br>(計画)  | 幼稚園全体の支援、補助を行うために 5 園に 1 名ずつの教育支援員の配置を行う。                                                                    |               |  |
| 令和 6 年度<br>取組状況<br>(成果)  | 村立幼稚園 5 園に幼稚園教育支援員を 1 名ずつ配置して担任と連携し教育支援を実践することで、子供の成長及び学びの充実に寄与することができた。また、早朝登園児の受入れを行うことで保護者の就労支援を行うことができた。 |               |  |
| 自己評価                     | B                                                                                                            | 計画どおりの成果があった。 |  |
|                          | 教育支援員を配置できたことで、教育支援の充実が図られるとともに保護者の就労支援につながられた。                                                              |               |  |
| 課題                       | ・教育支援員の安定的な人材確保                                                                                              |               |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | ・多様な媒体を活用し、教育支援員の安定的な人材確保に努める。                                                                               |               |  |

|            |                                                                                                                            |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 今年度も幼稚園 5 園に 1 名ずつ教育支援員を配置でき、そのことが日常の保育の中できめ細かな教育支援を行うことができていると評価する。今後の課題は安定的な人材の確保である。対象教育支援員の声も踏まえて人材確保のための工夫につなげてもらいたい。 |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 3) 健やかな体の育成

|    |                 |                       |                   |
|----|-----------------|-----------------------|-------------------|
| 12 | 事業名             | 児童生徒の地域クラブ等活動応援基金積立事業 | 決算書 P. 323        |
|    | 担当部署            | 生涯学習課スポーツ振興係          | 事業費 200,000,000 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち        | スポーツの推進           |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実  | 健やかな体の育成          |

|                  |                                                                                                           |               |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要             | 児童生徒におけるスポーツ活動等を行う地域クラブや個人を支援することを目的とした基金条例を制定し、「読谷村スポーツ振興推進協議会」に補助金を支出し、派遣費の助成をすることによる政策的重点課題解消への取組みを行う。 |               |
| 令和6年度取組内容（計画）    | 基金条例を制定して、ふるさと納税を活用し、児童生徒の地域クラブ等活動応援基金の積立を行う。                                                             |               |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 基金条例を制定して、ふるさと納税を活用し、児童生徒の地域クラブ等活動応援基金の積立を行った。                                                            |               |
| 自己評価             | B                                                                                                         | 計画どおりの成果があった。 |
|                  | 児童生徒におけるスポーツ活動等を行う地域クラブや個人を支援することを目的とした基金条例を制定し、積立を行うことができた。                                              |               |
| 課題               | 「読谷村スポーツ振興推進協議会」はスポーツ活動にかかる派遣費の助成を行っているので、その要綱等の改正を図る必要がある。                                               |               |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | 令和7年度中に「読谷村スポーツ振興推進協議会」の要綱等の改正を行い、基金積立事業で得られた運用益を活用し、派遣費の助成を拡充させていく。                                      |               |

|            |                                                                                                                               |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 地域クラブ等の支援を目的とした基金条例の制定・積立の取り組みは、保護者の負担軽減、各種競技の底辺拡大及びスポーツ振興の環境づくりの一つとして意義がある。今後とも取り組みの充実で児童生徒の健全な育成及び健康づくりへの意識の高揚につながることを期待する。 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                      |                   |
|----|-----------------|----------------------|-------------------|
| 13 | 事業名             | 給食調理場管理運営事業          | 決算書 P. 351        |
|    | 担当部署            | 給食調理場給食係             | 事業費 1, 573, 029 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実         |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 健やかな体の育成          |

|                          |                                                                                                                                                              |               |  |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--|
| 事業概要                     | 学校給食法及び読谷村立学校給食調理場運営方針に基づく学校給食運営をめざすため、適正かつ円滑な村立給食調理場の管理運営を行う。また、給食会計事務を総括し、適正かつ円滑な給食会計の管理運営を行う。                                                             |               |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | 安全・安心な学校給食の提供や食育の推進を図るため、各給食調理場や給食会計事務を総括し、適正かつ円滑な管理運営を行う。                                                                                                   |               |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | ①令和6年度給食費徴収率：99.5 %（令和5年度 99.5%）<br>②児童生徒へ学校給食の理解と知識の増進を図るため学校給食ポスターコンクールを開催<br>③令和6年 10 月より物価高騰に伴う給食費不足分の補助の検討と令和7年度より給食費を改正するため、学校給食調理場運営委員会を3回開催し、検討を行った。 |               |  |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                            | 計画どおりの成果があった。 |  |
|                          | 保護者の理解と学校事務担当者の努力もあり徴収率 99.5%とすることができた。                                                                                                                      |               |  |
| 課題                       | ・給食費未納者を増やさないよう取組の継続実施<br>・給食会計の公会計化検討                                                                                                                       |               |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 学校事務職員と連携し、給食費未納の方への声掛けや文書での通知を継続して行う。                                                                                                                       |               |  |

|            |                                                                                                                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 学校給食の運営に関しては、保護者や各学校、学校給食調理場職員の理解と協力のおかげで、適正かつ円滑な給食調理場の管理運営が行われていることを評価する。中でも給食費の納付率が高いことは、学校給食への保護者からの「信頼と期待」と捉えたい。物価高騰にともなう給食費の改正後の状況については、学校給食調理場運営委員会において常に情報の共有と対応をお願いしたい。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                      |                     |
|----|-----------------|----------------------|---------------------|
| 14 | 事業名             | 給食調理場運営事業（読谷・読谷第二）   | 決算書 P. 353、P. 355   |
|    | 担当部署            | 給食調理場給食係             | 事業費 162, 043, 154 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 健やかな体の育成            |

|                          |                                                                                                                                                                               |               |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 「子ども達の豊かな心と丈夫な体をつくる学校給食」を基本に、食の安全・安心、栄養バランスのとれた美味しい給食供給、児童生徒の健康、食育及び村民の食生活改善に寄与する学校給食運営をめざす。                                                                                  |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | 7 小中学校の児童生徒へ学校給食衛生管理基準等に基づき、衛生管理を徹底し、栄養バランスのとれた美味しく、安全・安心な給食の提供を行う。<br>食育推進のため、給食提供方法の工夫や栄養教諭による給食指導を実施する。                                                                    |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | ・栄養士・調理員において衛生管理を徹底した上で、村内小中学校の児童生徒に対し給食提供を実施<br>・行事食による児童生徒が給食を楽しめるような食育を実施（絵本の給食、スポーツ応援給食、食育の日、給食週間等）<br>・児童生徒が考案した献立の給食提供を実施<br>・栄養教諭による給食指導や特別授業により、食に関する理解や興味を深める取り組みを展開 |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                             | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | 給食が原因となる食中毒や危険異物の混入はなく、安全・安心な給食提供を行えた。児童生徒が考案したメニューの提供など工夫をすることで食への興味と関心を高め、食育の推進を図ることができた。                                                                                   |               |
| 課題                       | 給食残量につながっている要因を探り、少なくするような食育の取り組みを行う。                                                                                                                                         |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 物価高騰の状況を注視し、安定した給食提供を図るため献立を工夫しながら提供を行う。<br>子どもたちが苦手な食材も食べ慣れるよう、食育の日やスポーツウィーク等を通してイベント給食の継続提供を行う。                                                                             |               |

|            |                                                                                                                                                 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 今年度も食中毒や危険異物の混入がなく安全・安心な学校給食の提供ができたことを評価する。また、行事食、絵本の給食、スポーツ応援給食、食育の日などの児童生徒が給食を楽しめる学校給食提供の工夫は、給食残量の改善につながるものと捉えている。今後も安心・安全で楽しい学校給食の提供をお願いしたい。 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

4) 多様なニーズに対応した教育支援の充実

|    |                 |                      |                     |
|----|-----------------|----------------------|---------------------|
| 15 | 事業名             | 特別支援教育支援員配置事業        | 決算書 P. 263          |
|    | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 123, 170, 598 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実           |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 多様なニーズに対応した教育支援の充実  |

|                  |                                                                                                                                                                                     |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 心身に障がいがあり、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対応した支援を行うため、各幼稚園及び各小中学校に特別支援教育支援員等、学校指導課に特別支援教育専門員（会計年度任用職員）を配置する。                                                                                   |
| 令和6年度取組内容（計画）    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村立幼稚園及び小中学校へ特別支援教育支援員及び特別支援ヘルパー等、学校指導課へ特別支援教育支援専門員（会計年度任用職員）を配置し、対象幼児及び児童・生徒の学校生活の支援を行う。</li> <li>・ 各種支援員等の人材確保を図るため、処遇改善を検討する。</li> </ul> |
| 令和6年度取組状況（成果）    | <p>村立幼稚園、小中学校に特別支援教育支援員（19名）及び特別支援ヘルパー（23名）を配置</p> <p>学校指導課に特別支援教育支援専門員（会計年度任用職員）（2名）を配置</p> <p>村立小学校2校において医療的ケア児対応の看護師（2名）を配置</p> <p>各種支援員等の処遇改善を実施した。</p>                         |
| 自己評価             | <p>B 計画どおりの成果があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続して処遇改善を行うことにより特別支援教育支援員、特別支援ヘルパー、看護師を確保でき、特別な支援を必要とする幼児、児童生徒及び医療的ケアが必要な児童の学校生活支援を行うことができた。</li> </ul>             |
| 課題               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援教育支援員等の安定的な人材確保</li> <li>・ 支援の充実を図るための資質向上に向けた取り組み</li> </ul>                                                                          |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な媒体を活用し、特別支援教育支援員等の安定的な人材確保に努める。</li> <li>・ 特別支援教育支援員、特別支援ヘルパーの研修の更なる充実を図る。</li> </ul>                                                   |

|                                |                                                                                                                                                                |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>人材確保の厳しい昨今、大幅な処遇改善を行うことにより、必要な特別支援教育支援員、特別支援ヘルパー、看護師を確保したこと、特に学校指導課に特別支援教育支援専門員1人を増員したことは、事業の推進・充実につながるものと期待でき評価する。今後も安定的な人材確保と支援員のさらなる資質向上に向けた努力を期待する。</p> |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                      |                    |
|----|-----------------|----------------------|--------------------|
| 16 | 事業名             | 特別支援教育推進事業           | 決算書 P. 267         |
|    | 担当部署            | 学校指導課学校指導係           | 事業費 1,893,797 円    |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 多様なニーズに対応した教育支援の充実 |

|                          |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                        |  |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要                     | 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育（就学）支援を行う。<br>特別支援教育に携わる教職員を対象に研修を実施し、対象の児童生徒が、充実して学校生活を過ごせるよう支援する。                                                                       |                                                                                                                                        |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | ・教育支援委員会を随時開催し、就学に関する支援を行う。<br>・支援対象の幼児、児童及び生徒について心理検査及び言語検査の実施<br>・保護者面談の実施<br>・幼小中学校に巡回相談員を派遣する。                                                               |                                                                                                                                        |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | 教育支援委員会の開催 13 回、就学支援 118 名<br>特別支援教育コーディネーターの定例会（研修会含）を 7 回、特別支援員研修会 4 回、特別支援ヘルパー研修会 3 回、巡回相談：小中学校 4 回、幼稚園 20 回<br>就学先に向けての保護者面談及び親子面談 38 件<br>検査結果のフィードバック 61 件 |                                                                                                                                        |  |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                | 計画どおりの成果があった。                                                                                                                          |  |
|                          |                                                                                                                                                                  | 特別支援コーディネーター、特別支援教育支援員、特別支援教育ヘルパー研修会にてそれぞれの職種に合った研修会を行うことができた。                                                                         |  |
| 課題                       |                                                                                                                                                                  | ・特別支援学級(情緒)に入級した児童がそのまま小6まで在籍するケースが多くあり、発達に応じた退級について改善が必要<br>・特別支援学級対象児童生徒名簿、通級指導教室対象児童生徒名簿、特別支援教育支援員及び特別支援教育ヘルパー、医療的ケア看護師配置児童生徒電子データ化 |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） |                                                                                                                                                                  | ・心理検査等を踏まえた個別支援計画書に基づく指導について、訪問確認をして、年間を通し、発達に応じた退級に向けて学校と確認をしていく。<br>・名簿等の電子データ化                                                      |  |

|                                |                                                                                                                                  |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>特別支援教育コーディネーター定例会、特別支援員研修会、特別支援ヘルパー研修会を開催し資質の向上を図ったことを評価する。課題である特別支援学級(情緒)の発達に応じた退級については、学校との連携が不可欠であり改善に向けた取り組みの推進を期待する。</p> |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                      |                    |
|----|-----------------|----------------------|--------------------|
| 17 | 事業名             | 小中学校特別支援補助事業         | 決算書 P. 283、P. 297  |
|    | 担当部署            | 教育総務課教育総務係           | 事業費 3,935,458 円    |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 多様なニーズに対応した教育支援の充実 |

|                          |                                                                                                                                                       |              |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 事業概要                     | 村立小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的な負担を軽減するため、その負担能力に応じ、特別支援教育就学奨励費を給付し、障がいの有無に関わらず、全ての子どもが安心して学んでいくことができる特別支援教育の振興を図る。                                    |              |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 特別支援教育就学奨励費対象者に、学用品費、通学用品費、学校給食費、校外活動費、新入学用品費、修学旅行費を支給する。                                                                                             |              |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | 特別支援教育就学奨励費対象者に、学用品費、通学用品費、学校給食費、校外活動費、新入学用品費、修学旅行費について、就学援助の支給単価の1/2額を支給した。また、就学援助に該当する世帯には就学援助を勧め、保護者の経済的負担軽減を図ることができた。<br>対象者：100名（小学校：68名、中学校32名） |              |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                     | 計画どおりの成果があった |
|                          | 学用品費や学校給食費等を支給することにより、特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図ることができた。                                                                                           |              |
| 課題                       | 対象者が特別支援学級の児童生徒の保護者に限られるため、制度の周知については学校事務と連携が必要である。                                                                                                   |              |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 今年度に引き続き、申請時の案内文書に支給費目及び単価一覧を配布し、周知に努める。                                                                                                              |              |

|            |                                                                                                                                    |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 本事業は「学校教育法施行令第22条の3」に該当する児童生徒が安心して学んでいくことができるようにする事業である。対象となる児童生徒100名に対し適切に支援することができたことを評価する。課題である制度の周知については引き続き工夫しながら改善につなげて頂きたい。 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                      |                    |
|----|-----------------|----------------------|--------------------|
| 18 | 事業名             | 小中学校就学援助事業           | 決算書 P. 283、P. 297  |
|    | 担当部署            | 教育総務課教育総務係           | 事業費 70,119,990 円   |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち       | 子どもの教育の充実          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもたちの幸福を実現する「学び」の充実 | 多様なニーズに対応した教育支援の充実 |

|                  |                                                                                                                                                   |              |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 事業概要             | 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等の必要な援助を行うことにより、子どもに学びの機会等を十分に与え「貧困の連鎖」を防止する。                                                                   |              |
| 令和6年度取組内容（計画）    | ①要保護対象者に修学旅行費を支給する。<br>②準要保護対象者に、学用品費、通学用品費、学校給食費、校外活動費、新入学用品費（新入学準備金）、修学旅行費を支給する。<br>③全児童生徒へのチラシ及び申請書配布、オリエンテーションや就学時健診でのチラシ配布、広報掲載等就学援助の周知に努める。 |              |
| 令和6年度取組状況（成果）    | ①要保護対象者に修学旅行費の支給を行った。<br>対象者：3名（小学校：1名、中学校：2名）<br>②準要保護対象者に学用品費や学校給食費等の支給を行った。<br>対象者：783名（小学校：514名、中学校269名）                                      |              |
| 自己評価             | B                                                                                                                                                 | 計画どおりの成果があった |
|                  | 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行うことで、子ども達が安心して学ぶことができた。                                                                                      |              |
| 課題               | 就学援助の認定基準に児童扶養手当全部支給を受けている者とあるが、近隣市町村では児童扶養手当を受けている者とあり、一部支給も対象としている。                                                                             |              |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | 次年度に向け、就学援助の認定基準について、児童扶養手当を受けている者へ規則改正を行ったことにより、ひとり親世帯の経済的負担の軽減が図られる見込みである。                                                                      |              |

|            |                                                                                                               |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 教育は、どの児童生徒にも等しく学びの機会が提供されることが重要である。本事業が推進され、児童生徒が安心して学べる環境づくりの援助が丁寧に行われていることを評価する。本事業の更なる充実のための努力を引き続きお願いしたい。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 2 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり

### 1) 生涯学習の充実

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 19 | 事業名             | 生涯学習事務運営事業                     | 決算書 P. 317       |
|    | 担当部署            | 生涯学習課生涯学習係                     | 事業費 13,241,297 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実          |

|                          |                                                                                                                                                               |               |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 生涯学習庶務全般を構成する。主なものでは、会計年度任用職員給与及び手当、学習等供用施設 10 箇所の建物災害共済分担金及び消防設備等施設の修繕、社会教育関係団体の補助金及び負担金及び研修会負担金を交付する。                                                       |               |
| 令和 6 年度<br>取組内容<br>(計画)  | ・会計年度任用職員給与及び手当<br>・学供施設建物災害共済分担金 10 箇所<br>・消防設備点検後の施設修繕 2 箇所（比謝、伊良皆）<br>・社会教育関係団体補助金 5 団体及び負担金 3 団体<br>・楚辺多目的ホール施設設備修繕補助金（空調修繕）<br>・長浜地区学習等供用施設設備修繕補助金（空調修繕） |               |
| 令和 6 年度<br>取組状況<br>(成果)  | 自治会の消防設備点検後の修理のほか、楚辺自治会、長浜自治会の空調修繕を村補助金を活用して実施し、地域住民が安全に充実した活動を行える環境を整えることができた。また、各団体への補助金交付と活動支援を行った。                                                        |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                             | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | 各社会教育団体の総会へ参加し、補助金が適正執行されているかの確認を行った。今後の活動等の聞き取りも行いながら適正な金額を補助する。                                                                                             |               |
| 課題                       | 各学習等供用施設は建築から長年経過しているため、計画的に修繕を実施し施設の長寿命化を図る必要があるが、財源確保が課題である。                                                                                                |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 令和 5 年度に作成したまなびあいプランを村民と協働で推進していく。<br>学習等供用施設等の施設修繕や消防設備修繕等については、自治会や総務課との連携を図り、予算を確保して実施する。                                                                  |               |

|            |                                                                                                                    |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 村補助金を活用した自治会の空調修繕は、利用者が安全に充実した活動が行える環境維持の観点から評価できる。また、各団体への補助金交付は、自主的な活動を支援する事業として意義がある。適切な事業活動に向けては情報共有及び指導助言を望む。 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |               |
|----|-----------------|--------------------------------|---------------|
| 20 | 事業名             | まなびフェスタ事業                      | 決算書 P. 319    |
|    | 担当部署            | 生涯学習課生涯学習係                     | 事業費 552,330 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実       |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実       |

|                  |                                                                                                                                                                                                  |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | ふれあい交流館及び自治公民館等で生涯学習に関わる活動を展開している各種団体・組織・部署の活動を集約し、広く村民へ活動を紹介することにより、村民の社会教育・生涯学習活動への参加促進を図る。                                                                                                    |
| 令和6年度取組内容（計画）    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル発表、子ども体験、わくわくワーク（お仕事体験）、O I S T 昆虫観察、モルック体験、婦人会フリーマーケット等、多種多様な講座を開催する。</li> <li>・学力向上推進助成金を活用して Kiroro の玉城千春氏の講演会「好きなこと挑戦することを楽しもう」を開催する。</li> </ul> |
| 令和6年度取組状況（成果）    | <p>文化センターでは会場全体を活用して各種団体による体験コーナーの他、音楽祭や講演会を行った。また、図書館でも図書館カフェや雑誌等譲渡会、活動展を開催し幅広く多くの村民の参加で賑わい、全体を通して大人から子どもまで様々な学びと交流の機会となった。</p> <p>・2日間開催で35項目、延べ4,123名</p>                                     |
| 自己評価             | <p>B 計画どおりの成果があった。</p> <p>関係課・各社会教育関係団体と実施計画等の調整を行い、事前準備に努め、計画通り実施することができた。</p>                                                                                                                  |
| 課題               | 「学びの機会」となるまなびフェスタなので、多種多様な学びが行えるコーナー（飲食含む）を設定し、その運営にも多くの村民が関わり、参加する機会を創り出せるよう企画実施する。                                                                                                             |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | 早めに実行委員会等を開催し、各種団体や関係機関が自主的に企画運営できるように取組む。                                                                                                                                                       |

|            |                                                                                                                             |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 各講座（講演、音楽祭、体験、図書カフェ、雑誌譲渡会等）に、延べ4,123名の参加者があり「学び育ち合う」環境づくりに寄与したものと評価できる。今後とも多くの村民が関わり学びと交流の機会となるよう、各団体と連携し取り組みの充実が図られることを望む。 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |              |
|----|-----------------|--------------------------------|--------------|
| 21 | 事業名             | 社会教育関係指導者育成事業                  | 決算書 P. 319   |
|    | 担当部署            | 生涯学習課生涯学習係                     | 事業費 99,967 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実      |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実      |

|                          |                                                                                                                                                                     |               |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 社会教育関係団体（青年会・婦人会・子ども会・PTA）及び読公連、社会教育委員が一同に会し研修会を行う。また、ジュニアリーダー研修会では、様々なプログラムを通して人材育成を行う。                                                                            |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | 社会教育関係団体合同研修会及び合同ミーティングの開催<br>読谷村及び中頭地区ジュニアリーダー研修会の実施                                                                                                               |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | 合同ミーティングや研修等を通して課題共有を図り、その課題を解決する為の目標設定を行うことができた。ジュニアリーダーについては、毎月定例で活動をすることで、リーダーとしての資質向上や社会性、協調性を育み、成長につながった。<br>・社会教育関係団体合同研修会 2回延べ65名<br>・読谷村ジュニアリーダー研修会 7回延べ63名 |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                   | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | 前期・後期に合同ミーティング、研修会を開催、各社会教育団体の現状と課題について共通認識できる場を提供し、計画通り実施することができた。                                                                                                 |               |
| 課題                       | 各種団体において会員数減少等、共通の課題があることから、解決方法を模索し、取り組む必要がある。                                                                                                                     |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 各団体が横でつながり、人材育成が継続的に行える体制を維持する。<br>課題を踏まえ各団体が具体策を主体的に考えられるように支援する。<br>読子連と鳥取県日吉津村との夏の交流において、ジュニアリーダーも一緒に交流できるよう調整し、更なる成長につなげる。                                      |               |

|            |                                                                                                                          |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 合同ミーティングや研修等を通して各社会教育団体の課題を共有し、解決へ向け目標が設定でき評価できる。合同研修会に延べ65名、ジュニアリーダー研修会に延べ63名の参加者があった。多くの参加者があったことは子ども会活動の活性化に向け成果があった。 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 22 | 事業名             | 図書館運営事業                        | 決算書 P. 323       |
|    | 担当部署            | 生涯学習課図書館係                      | 事業費 39,175,954 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実          |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                               |  |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要          | 図書館資料及びレファレンス機能を活用し、地域課題の解決に対応する情報を広く提供し、暮らしの中に役立つ情報センターとしての機能を有する地域支援型図書館として、村民サービスに寄与する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                               |  |
| 令和6年度取組内容（計画） | ①図書館資料の貸出サービス、②予約・リクエスト・レファレンスサービス、③講座や主催事業の実施、④図書館見学・職場体験等の受け入れ、⑤嘉手納町立図書館との相互利用展開、⑥学習室等による学習の場の提供、⑦図書館ボランティア活動支援、⑧電子図書館サービス、⑨（仮称）読谷村総合情報センターへの移行に向けての調整・整備                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                               |  |
| 令和6年度取組状況（成果） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・①貸出件数（86,980 件）、②利用人数（19,213 人）、③予約・リクエスト（1,611 件）、④レファレンス（2,376 件）、⑤嘉手納町立図書館の相互利用人数・貸出件数（6,897 人、33,792 件）、⑥学習室利用（5,113 人）、⑦インターネット利用（556 人）、⑧A Vブース利用（540 人）、⑨電子図書館の貸出冊数・利用人数（206 人、542 件）</li> <li>・来館が困難な利用者へ電子図書館サービスを継続し、広報等での利用促進に努めた。</li> <li>・電子書籍の購入<br/>（電子書籍所蔵 1,382 冊、電子雑誌閲覧サービスタイトル数 278 タイトル）</li> <li>・読谷村ブックスタート事業の一環として、乳児健診会場におけるブックスタートパックの配付回数を増やした（6 回、105 セット配布）</li> <li>・（仮称）読谷村総合情報センター内への移転に向け、図書館運営業務及び施設維持管理業務について関係各課および民間事業者との調整を行った。</li> <li>・移管予定の郷土資料の確認・登録作業を継続実施</li> </ul> |                                                                                                                               |  |
| 自己評価          | B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 計画どおりの成果があった。                                                                                                                 |  |
|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | （仮称）読谷村総合情報センターへの移転準備のため、令和7年3月より一時休館となり、貸出冊数、利用人数等については前年度実績を下回ったが、年間を通して定例行事を 67 回、主催事業を 30 回開催し、多くの事業を実施することができ、利用者の読書活動の充 |  |

|                             |                                                                                                                                                 |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                             | 実に寄与した。                                                                                                                                         |
| 課 題                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子図書館の利活用促進</li> <li>・（仮称）読谷村総合情報センターへの移行に向けての調整・整備</li> <li>・書庫の収納スペース不足による閉架資料の分散保管（恒常的課題）</li> </ul> |
| 次年度以降の<br>取 組 内 容<br>（課題対応） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮称）読谷村総合情報センターへの移転作業の円滑な実施</li> <li>・移転後の図書館運営業務、施設維持管理業務のモニタリング評価の実施</li> </ul>                       |
| 学 識 経 験 者<br>か ら の 意 見      | 利用者人数、貸出件数ともに成果あり、本村の情報文化発信の拠点として村民の読書活動に寄与し評価できる。読谷村総合情報センター「ゆんラボ・未来館」への移転作業が円滑・安全に行われることを望む。                                                  |

|    |                 |                                |                 |
|----|-----------------|--------------------------------|-----------------|
| 23 | 事業名             | ふれあい交流館自主事業                    | 決算書 P. 335      |
|    | 担当部署            | 生涯学習課文化センター係                   | 事業費 1,079,380 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実         |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実         |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要          | 村民が、興味を持って取り組める講座や教室を開催し、閉講後も自主的に活動を継続できるような生涯学習のきっかけづくりを行う。村民を対象とした講座を行うことにより、生涯学習の充実につなげる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 令和6年度取組内容（計画） | ふれあい交流館自主事業として、16の講座教室等を計画し、実施する。自治公民館の事業活性化のため、事業委託を行い、自治公民館自主講座等を開催する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 令和6年度取組状況（成果） | <p>主事業は30講座で延べ1,764名が受講しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまくとうばでゆんたく会は、村史編集室へ移管し、放課後しまくとうばクラブに発展した。</li> <li>・ストリートダンス教室は、計画していた読谷まつり以外に成人式、まなびフェスタでの出演を行った。</li> <li>・ゆんたんざやちむんクラブは赤犬子三線・箏・太鼓クラブのやちむん版として円滑に運営できた。</li> <li>・初心者向け三線教室は、昨年に引き続き文化センター登録サークルの講師に依頼したことで、多くの受講者（8名）がサークルに加入し、活性化につなげることができた。</li> <li>・児童生徒向けの琉球笛教室を始めて開催した。</li> <li>・自治公民館講座は横田（延べ96名）、渡具知（延べ28人）、喜名（延べ41人）が参加し、公民館の活性化に寄与することができた。</li> </ul> |
| 自己評価          | <p>B 計画どおりの成果があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申込みについては、前年に引き続きインターネットを活用し、電子申請を行ったことで、村民ニーズに応え、利便性の向上が図られた上、事務の効率化にもつなげることができた。</li> <li>・計画では、16講座のところ30講座、教室を開催することができた。また、サークル加入者が増える等生涯学習の推進が図られた。</li> <li>・子ども琉球笛教室は、赤犬子クラブの一部として発展した。</li> <li>・ニーズ調査のため、講座終了後受講してみたい講座についてアンケートを実施した。</li> </ul>                                                                                                                       |
| 課題            | 従来の講座、教室の継続が多いため、村民ニーズを把握するためのインターネットアンケート等の手法を検討したい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|                             |                                                                                                                        |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                             | また、所有備品を有効活用できるような講座、教室の開催を検討したい。                                                                                      |
| 次年度以降の<br>取 組 内 容<br>(課題対応) | 他市町村の講座実施状況の情報収集や世間で注目されている講座、教室情報を幅広く収集する他、LINE 等を活用したアンケート調査を行うことで、村民ニーズを把握し、企画を行う。<br>所有備品の有効活用が行える講座等の企画を行う。       |
| 学 識 経 験 者<br>か ら の 意 見      | 多くの講座・教室（赤太子三線クラブ、しまくとうば、ストリートダンス）等に延べ1,764名と昨年以上の村民の参加があり、村民への「学習機会の提供」に寄与したものと評価できる。今後とも住民ニーズの把握、先進の情報収集で取り組みの充実を望む。 |

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 24 | 事業名             | 文化センター施設管理運営事業                 | 決算書 P. 335       |
|    | 担当部署            | 生涯学習課文化センター係                   | 事業費 53,263,599 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実          |

|                          |                                                                                                                                    |               |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 鳳ホールとふれあい交流館の複合施設である文化センターの施設運営を行う。                                                                                                |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 鳳ホール、芸能、文化の発表・観賞及び創造の場、ふれあい交流館は、生涯学習促進と村民交流の場として位置づけられており、より良い環境を提供する。                                                             |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | ・適切な維持管理により円滑な利用が出来た。<br>・鳳ホール：貸館87件、来場者数28,792人<br>・ふれあい交流館：貸館1,491件、来館者数42,575人<br>・各所の修繕工事を実施した。<br>・防犯対策として、2階トイレへ防犯カメラを設置した。  |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                  | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | 保守点検により、指摘のあった個所については、修繕をして利用しやすい施設環境を保持する事ができた。                                                                                   |               |
| 課題                       | ・施設、設備、備品の経年劣化が見られる箇所があるが、一部設備については保守部品等の生産縮小及び生産終了となっていることから今後も施設修繕及び設備、備品の入替えを行う必要がある。<br>・死角になる個所(裏口、職員駐車場、ピロティ)の防犯対策が必要となっている。 |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 令和5年度末に策定した読谷村文化センター等個別施設計画に基づき、安全で快適な環境と整えるため、施設及び設備の更新を行っていく。                                                                    |               |

|            |                                                                                     |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 防犯カメラ設置は、施設利用者、従業員の安全と安心を守るための対応で評価できる。施設経年劣化による設備、備品の入替え等は状況に応じ必要と考える。迅速で適切な対応を望む。 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |               |
|----|-----------------|--------------------------------|---------------|
| 25 | 事業名             | 鳳ホール事務運営事業                     | 決算書 P. 341    |
|    | 担当部署            | 生涯学習課文化センター係                   | 事業費 996,219 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実       |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実       |

|                  |                                                                                                                        |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 鳳ホールの円滑な運営を図るとともに、読谷村文化協会へ補助金を交付し、文化振興の向上に努めていく。<br>沖縄県公立文化施設協議会との連携                                                   |
| 令和6年度取組内容（計画）    | 沖縄県文化施設協会、全国公立文化施設協会へ負担金を拠出し、読谷村文化協会へ補助金を交付することで、文化活動の支援を行う。                                                           |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 以下の団体に負担金を拠出し、補助金を交付することにより、文化振興活動への支援を行った。<br>【負担金】<br>沖縄県文化施設協議会、全国公立文化施設協会<br>【補助金】<br>読谷村文化協会<br>鳳ホール入場者数：28,792 人 |
| 自己評価             | B 計画どおりの成果があった。<br>沖縄県及び全国公立文化施設協会へ負担金を拠出することで、公立文化施設協会の普及発展に寄与した。<br>また、村文化協会へ補助金を交付し活動を支援することで、村文化協会活動の継承発展に寄与した。    |
| 課題               | 文化協会の総会資料作成に関し、助言の必要性について検討を要する。                                                                                       |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | 引き続き、文化協会への補助、公立文化施設協会との連携を行い文化活動への支援を継続していく。                                                                          |

|            |                                                                                                                              |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 鳳ホールの利用者が 28,792 人と前年度より多く活用され、地域の文化拠点として寄与しており評価される。読谷村文化協会への補助金交付は、地域文化の継承・発展に寄与するものである。適切な事業活用が行われるよう情報共有・指導助言等で支援の継続を望む。 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                 |
|----|-----------------|--------------------------------|-----------------|
| 26 | 事業名             | 学習等供用施設改修事業                    | 決算書 P. 341      |
|    | 担当部署            | 生涯学習課生涯学習係                     | 事業費 5,797,374 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実         |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯学習の充実         |

|                          |                                                                              |              |  |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------|--|
| 事業概要                     | 学習等供用施設の老朽化による外壁の損傷や空調機能の低下に伴い改修工事を行い、地域住民が安全安心に社会教育活動が行える環境を整備する。           |              |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 補助事業を活用し、学習等供用施設を計画的にメンテナンスすることで、施設の長寿命化を図れるよう全体計画に基づき修繕を進める。                |              |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | 学習等供用施設修繕の全体計画に沿って、伊良皆地区学習等供用施設の改修工事の実施設計を行った。                               |              |  |
| 自己評価                     | B                                                                            | 計画通りの成果があった。 |  |
|                          | 補助事業を活用し、伊良皆地区学習等供用施設の改修工事の実施設計を完了した。                                        |              |  |
| 課題                       | 実施設計後、全体工事費積算の為1年置いて改修工事を令和8年度に実施するので、物価高騰等の影響が懸念される。                        |              |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 全体計画に基づき、令和8年度実施予定の伊良皆地区学習等供用施設の改修工事と都屋地区学習等供用施設の実施設計に向け、防衛局へ事業計画の提出等、調整を行う。 |              |  |

|            |                                                                                                                       |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 施設の老朽化に伴い安全・快適に利用できる環境確保が課題となっており改修は適切なタイミングと考える。改修実施計画に基づき実施設計が完了し評価できる。この施設は地域住民の学習・交流拠点の大切な役割を担っており計画的に事業が進むことを望む。 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 2) 生涯スポーツの推進

|    |                 |                                |                 |
|----|-----------------|--------------------------------|-----------------|
| 27 | 事業名             | 後援団体育成事業                       | 決算書 P. 349      |
|    | 担当部署            | 生涯学習課スポーツ振興係                   | 事業費 9,048,095 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | スポーツの推進         |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯スポーツの推進       |

|                  |                                                                                                                                                                                                    |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 各種団体に補助金等を支出し活動を支援することにより、団体の育成やスポーツ指導が充実し、青少年の健全育成、将来のスポーツ選手の育成につなげる。                                                                                                                             |
| 令和6年度取組内容（計画）    | <p>下記の団体に、負担金又は補助金を交付することにより、活動支援を行う。</p> <p>【負担金】<br/>中頭郡スポーツ協会、沖縄県スポーツ推進委員協議会、中頭地区スポーツ推進委員協議会、中頭地区社会体育研究協議会</p> <p>【補助金】<br/>読谷村体育協会、少年野球読谷支部、読谷村ソフトボール協会、読谷村ラグビー協会、読谷村サッカー協会</p>                |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 各種団体への負担金及び補助金を交付して、各種団体の活動支援を行った。各種団体とともに大会等の実施に取り組み、競技力向上、青少年の健全育成に寄与した。                                                                                                                         |
| 自己評価             | <p>B 計画どおりの成果があった。</p> <p>各種団体が大会等の実施に取り組み、競技力向上、青少年の健全育成に寄与した。</p>                                                                                                                                |
| 課題               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体によって総会の開催時期にバラつきがあるため、適切な時期での開催を実施するよう指導・助言に努めていく。</li> <li>・新たに協会設立を目指す団体の取組みに対しても指導・助言に努めていく。協会の設立について窓口において相談を受けた事案はあるが、具体的な協会設立に向けた動きはない。</li> </ul> |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に補助金を執行してもらうためにも、早めの総会の開催を団体に呼びかけていく。</li> <li>・協会設立に向けて関心のあるスポーツ団体がある場合には、助言を行い、支援に取り組みたい。</li> </ul>                                                   |

|            |                                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 各種団体への負担金及び補助金の交付は、スポーツの普及・振興に寄与しており評価される。各種団体においては、適切な事業活用が行われるよう情報共有し必要に応じて指導助言と支援の継続を望む。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |               |
|----|-----------------|--------------------------------|---------------|
| 28 | 事業名             | 各種スポーツ教室運営事業                   | 決算書 P. 351    |
|    | 担当部署            | 生涯学習課スポーツ振興係                   | 事業費 268,844 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | スポーツの推進       |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯スポーツの推進     |

|                  |                                                                                                                                                                                                |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 全ての村民を対象に、気軽にスポーツに取り組めるような教室・講座を行う。ニュースポーツに関心を持ってもらう。気軽にスポーツを実施できる環境づくりを目的とする。                                                                                                                 |
| 令和6年度取組内容（計画）    | 村民にスポーツを楽しんでもらうために、各種スポーツ教室の実施・運営を行う。                                                                                                                                                          |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 夏休みの期間中、村内のこどもたちを対象に以下のスポーツ教室を開催した。<br>親子水泳教室 10 回開催（延べ 169 組）<br>タグラグビー教室 8 回開催（延べ 118 名参加）<br>陸上教室 1 回開催（22 名参加）<br>トレーニング室を活用し、初心者向けのコンディショニング講座を実施した。<br>コンディショニング教室（初心者向け講座）4 回開催（36 名参加） |
| 自己評価             | B 計画どおりの成果があった。<br>各教室の募集について、オンラインで行っているが、特に混乱なく各スポーツ教室の申込受付や開催ができた。                                                                                                                          |
| 課題               | トレーニング室を活用した教室について、シニア向け、女性向けに取り組んできているが、学生向けの教室も検討したい。                                                                                                                                        |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | 読谷村体育協会ウエイトリフティング専門部に相談し、こどもたち向けのトレーニング教室を開催予定                                                                                                                                                 |

|            |                                                                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 国の調査では 20 代以上の週 1 日のスポーツ実施率は、男性が 54.7%、女子が 49.4%で、特に 20 代～50 代の働く世代で低い。また児童生徒の調査からも子供の運動習慣の二極化が課題となっている。多くの村民が楽しく参加できる取り組み・広報の工夫は必要である。 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |               |
|----|-----------------|--------------------------------|---------------|
| 29 | 事業名             | 各種スポーツ大会運営事業                   | 決算書 P. 351    |
|    | 担当部署            | 生涯学習課スポーツ振興係                   | 事業費 521,765 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | スポーツの推進       |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯スポーツの推進     |

|                          |                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要                     | 村民が生涯にわたってスポーツに親しみ、体力の向上や健康増進を図ることを目的に各種スポーツ大会を実施・運営する。                                                                                                                                        |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 下記の大会を開催する。<br>①教育長旗争奪県中学校ソフトボール大会<br>②読谷けんこうまつり（古希・シニアソフトボール大会、新体力テスト）<br>③新春トリムマラソン及び小学生駅伝大会<br>④ウォーキング大会                                                                                    |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | 下記の大会を実施することができた。<br>①教育長旗争奪中学生ソフトボール大会<br>（男子2チーム、女子16チーム参加）<br>②読谷けんこうまつり<br>（古希ソフトボール大会（4チーム参加））<br>（新体力テスト（39名参加））<br>③新春トリムマラソン（353人）小学生駅伝大会215名（※43チーム）<br>④世界遺産座喜味城跡ウォーキング大会（11月、10人参加） |
| 自己評価                     | B 計画どおりの成果があった。<br>計画していた大会について実施することができ、村民の体力向上や健康増進を図ることに寄与できた。新春トリムマラソン、小学生駅伝について、村内小学校と日程を調整し、前年度比+216名の参加大幅増となった。                                                                         |
| 課題                       | ・シニア・古希ソフトボール大会について、ここ数年参加チームが減少しており、今年度は合同（交流）での開催となった。<br>・中学生のソフトボール部について、単独チームでの出場が困難なチームが増えてきている。<br>・新体力テストについて、参加人数が少ない。                                                                |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | ・各種ソフトボール大会については関係者と意見交換、情報交換を行い、大会の継続・発展に向けたサポートに努めたい。<br>・新体力テストについては、けんこうまつりとの同時開催を継続するとともに、開催する場所の工夫や事前の周知を行い、参加人数の増加に努めたい。                                                                |

|                                |                                                                                                                                  |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>「教育長旗中学校ソフトボール大会」「読谷けんこうまつり」「新春トリムマラソン」「世界遺産座喜味城跡ウォーキング大会」が計画通り実施され、村民の健康意識の向上・地域の活性化に寄与し評価できる。多くの村民がスポーツに親しめるよう事業の継続を望む。</p> |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                     |
|----|-----------------|--------------------------------|---------------------|
| 30 | 事業名             | 体育施設運営事業                       | 決算書 P. 359          |
|    | 担当部署            | 生涯学習課スポーツ振興係                   | 事業費 102, 886, 605 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | スポーツの推進             |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯スポーツの推進           |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 全てのスポーツを行う方を対象に、競技スポーツ及び生涯スポーツの施設として、快適なスポーツ環境を継続して提供できるように維持管理を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 令和6年度取組内容（計画）    | 施設の維持管理を適切に行い、有効に利用してもらう。<br>下記の主な体育施設について、計画値を設定する。<br>①オキハム読谷平和の森球場 182 件 ②読谷村運動広場 189 件                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 下記のとおり、体育施設を利用してもらうことができた。スポーツキャンプについても受入れを実施することができた。<br>① オキハム読谷平和の森球場 367 件（24, 172 名）<br>② 読谷村多目的広場 400 件（24, 352 名）<br>③ 読谷村運動広場 225 件（34, 456 名）<br>④ 読谷村テニスコート 166 件（2, 212 名）<br>⑤ 読谷村陸上競技場 266 件（14, 415 名）<br>⑥ 残波岬テニスコート 673 件（4, 605 名）<br>⑦ ZANPA プレミアム残波岬ボールパーク 164 件（8, 805 名）<br>⑧ 読谷村トレーニング室 18, 113 件（18, 113 名）<br>⑨ ゆんたんざソフトボール場 123 件（13, 177 名）<br>⑩ 読谷村体育センター 1, 465 件（17, 074 名） |
| 自己評価             | B 計画どおりの成果があった。<br>体育施設の修繕、管理手法の見直しや適切な維持管理を実施したことにより、利用者の増となり、有効活用が図れた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 課題               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予約システムの導入ができておらず、窓口対応に時間を要している。体育センターの予約希望者が窓口に殺到し、苦情や相談や要望を受けており、その対応でさらに時間を要している。</li> <li>・残波岬テニスコートの当日利用を希望する方について、平日だと役場まで足を運んで手書き及び現金支払で手続きをする必要があるため、施設利用をあきらめる観光客が多い。</li> <li>・野球場、陸上競技場及びボールパークの施設の空き状況についての問い合わせが多く、電話対応に時間を要している。</li> </ul>                                                                                                         |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | 予約システムの導入により、オンライン上で施設予約状況の確認、キャッシュレスによる支払い等、他自治体で既に行われている施設予約の方法に取り組む。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                        |                                                                                                                               |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学識経験者<br/>からの意見</p> | <p>適切な維持管理とスポーツキャンプが誘致でき、各体育施設とも利用が増え評価できる。予約システム及びキャッシュレス決済導入は、職員の負担軽減、業務の効率化、利用者へのサービスの向上につながり対応を望む。地域への波及効果等の検証の公表も必要。</p> |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 31 | 事業名             | 屋内運動場整備事業                      | 決算書 P. 361       |
|    | 担当部署            | 生涯学習課スポーツ振興係                   | 事業費 20,613,444 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | スポーツの推進          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯スポーツの推進        |

|                          |                                                                                                                                |               |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 北口駐車場整備工事のための実施設計（明許繰越）<br>屋内運動場整備工事の発注に向けた検討                                                                                  |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | （仮称）屋内運動場に隣接する北口駐車場の整備に向けた実施設計を行う。<br>（仮称）屋内運動場建設工事の発注を行う。                                                                     |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | （仮称）屋内運動場に隣接する北口駐車場の整備に向けた実施設計の完了<br>（仮称）屋内運動場建設工事については、工事の発注方法の見直しや調整を行い、3月に交付決定を受けることができたので、令和7年度以降、改めて発注することになった。           |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                              | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | 北口駐車場の実施設計について、連携業務として取り組むことができた。<br>（仮称）屋内運動場建設工事に向けて、関係省庁との調整に時間を要し、発注することができなかったが、3月には補助金の交付決定を受け、令和7年度以降、改めて工事発注を行う目途がついた。 |               |
| 課題                       | 補助事業による整備のため、関係省庁及び関係部署と連携を図りながら遅滞なく工事完了させる。                                                                                   |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 概算工事費が資材高騰等により増加傾向にあるため、関係省庁との調整を密にし、屋内運動場の整備の必要性を訴え、必要な予算の獲得に向けて取り組む。                                                         |               |

|            |                                                                                                                           |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | （仮称）屋内運動場へ隣接する北口駐車場の整備に向けて実施設計が完了したことは評価される。村民の健康増進・スポーツの技術向上、また、観光振興の促進・スポーツコンベンション誘致促進に向けて（仮称）屋内運動場建設工事が計画通り進められることを望む。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 32 | 事業名             | 残波岬ボールパーク機能強化事業                | 決算書 P. 363       |
|    | 担当部署            | 生涯学習課スポーツ振興係                   | 事業費 38,727,119 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | スポーツの推進          |
|    | 教育振興計画基本目標及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 生涯スポーツの推進        |

|                          |                                                                                       |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要                     | ZANPA プレミアム残波岬ボールパークの機能強化（物見塔、北側壁の新設、防球ネット、侵入防止柵の改修等）を行い、快適なスポーツ環境を提供できるよう施設整備を行う。    |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | 残波岬ボールパークの機能強化（物見塔、北側壁の新設、防球ネット、侵入防止柵の改修等）を行い、快適なスポーツ環境を提供できるよう施設整備を行う。               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | 残波岬ボールパークの機能強化工事を行うための実施設計を完了<br>3月に工事契約を行った。（繰越）                                     |
| 自己評価                     | B 計画どおりの成果があった。<br>実施設計の結果、資材の高騰等により本工事費に不足が生じ、工事発注が遅れたが、工事請負契約まで締結することができた。          |
| 課題                       | 実施設計の結果、本工事費が想定していたよりも高額になったため、補助金の増額を行う必要が生じた結果、年度内の工事完成に至らなかった。令和7年度は機能強化工事の完成を目指す。 |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | ZANPA プレミアム残波岬ボールパークの機能強化工事を完成させ、快適なスポーツ環境を提供する。                                      |

|            |                                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 残波岬ボールパーク（ラグビー・サッカー場）整備に向け工事請負契約を締結できたことは評価される。本施設の機能強化工事が計画的に進み、村民に快適なスポーツ環境の提供がなされることを望む。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|

3) 地域文化の継承・創造・発展

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 33 | 事業名             | 村内遺跡発掘調査事業                     | 決算書 P. 329       |
|    | 担当部署            | 文化振興課文化振興係                     | 事業費 41,678,316 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 地域文化の創造発展        |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展    |

|                          |                                                                                                                                                               |              |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 事業概要                     | 村内の埋蔵文化財の発掘調査及び報告書発刊のための資料整理を行う。<br>また、文化財を保存し、且つ、その活用を行う事で村民及び国民の文化財保護意識の向上を図る。                                                                              |              |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | ① 埋蔵文化財包蔵地の事前審査依頼に対する審査結果の回答を行う。<br>② 開発調整のための試掘調査及び立合を行う。<br>③ 「比謝川水系のグスク群」の報告書を発刊する。                                                                        |              |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | ① 埋蔵文化財包蔵地の事前審査依頼に対する結果の回答を 256 件行った。<br>② 本発掘調査、開発調整の試掘調査と立会いを 20 件（92 日）実施した。<br>③ 平成 21 年度～令和 5 年度発掘調査報告書(村内遺跡発掘調査等)「比謝川水系のグスク群」を発刊した。（読谷村文化財調査報告書 第 20 集） |              |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                             | 計画どおりの成果があった |
|                          | 埋蔵文化財包蔵地の事前審査依頼書の提出や試掘調査・工事立会の実施により、文化財の不時発見につながり、滅失を防ぐことが出来た。また、遺物等資料整理を行うことにより、遺跡の正確な性質を確認することができ、より良い報告書を作成する事ができた。                                        |              |
| 課題                       | 開発調整が増加しており、それに伴い事前審査依頼も増加傾向にあるが、考古学の専門知識を有する学芸員職の配置が十分でないことから、今後依頼が増加すると対応できなくなり、開発にも影響が出る可能性がある。                                                            |              |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 文化財を周知することで、保存および保護意識の向上につなげる必要がある。<br>また、計画的な調査（業務）が行える体制づくりを検討したい。                                                                                          |              |

|                                |                                                                                                                                 |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>村内の埋蔵文化財の発掘調査の実施及び「比謝川水系のグスク群」の報告書が刊行されたことは、村民の文化財保護意識の向上に寄与し評価できる。埋蔵文化財は、貴重な文化財で共有財産として大切に保存する必要がある。計画的な調査及び発掘作業の実施を望む。</p> |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 34 | 事業名             | 歴史資料整理活用事業                     | 決算書 P. 331       |
|    | 担当部署            | 文化振興課村史編集係                     | 事業費 18,238,737 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 地域文化の創造発展        |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展    |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                              |  |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要          | 沖縄や本村に特徴的な歴史を後世に継承していくため、これら種々の歴史資料や歴史公文書等を順次調査し、整理・保存・公開を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                              |  |
| 令和6年度取組内容（計画） | 収集および寄贈資料を整理、評価選別しデータベースへ登録する。貴重資料はデジタル化、ファイリングしデータベースを構築する。50年にわたる読谷まつりの画像、映像を整理し検索可能なデータベースウェブサイト構築、公開する。                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                              |  |
| 令和6年度取組状況（成果） | 村史編集室収蔵資料10,243点（当初目標値10,000点）を整理、登録することができた。<br>貴重資料のデジタル化及びファイリングを実施した。デジタル化写真数約12,500点（屋良朝苗アルバム、民俗調査）、デジタル化資料数約300件（復帰前公文書等）<br>読谷まつりの画像・映像データベースウェブサイト構築し、画像4,886点、映像を105本公開した。アクセス数18,000回（令和6年10月～令和7年3月）。<br>戦後復興初期の貴重資料を選定し、デジタル化した資料103点をHPに追加公開した。併せてそれら資料を紹介する展示会（2/27～3/30、入場者数2,681人）、講座（3/29、38人参加）を実施し事業成果を周知した。 |                                                                                                                                                              |  |
| 自己評価          | B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 計画どおりの成果があった。                                                                                                                                                |  |
|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 資料の整理、登録及びデジタル化、ファイリングにより、今後のレファレンス、教育利用などでのスムーズな活用が見込めるようになった。<br>公開するデータベースウェブサイトのアンケートでは、本村歴史文化への理解が深まった割合は90%、展示アンケートでは「よかった」とする割合が98%と利用者、観覧者から高い評価を得た。 |  |
| 課題            | 前年度課題に対応し、展示会を開催、利用頻度が見込める資料をウェブサイトにて公開した。引き続き、資料整理とともに分析を進め、本事業成果を展示や講座などで村民の方々へ広く周知し、さらなる利活用を図る。<br>なお一層の成果をあげるため、膨大な資料の整理、利活用を意図した体制整備も検討する。                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                              |  |

|                             |                                                                                                                                         |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 次年度以降の<br>取 組 内 容<br>(課題対応) | <p>村史編集室の（仮称）読谷村総合情報センターへの移転を想定した資料整理を進め、同センターでのレファレンス業務進展を図る。そのための収蔵図書や資料を検索できるデータベースウェブサイトを構築、公開する。</p> <p>年度末に事業成果を周知する展示会を開催する。</p> |
|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                        |                                                                                                                                                     |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学 識 経 験 者<br>か ら の 意 見 | <p>「読谷まつり」の画像・映像は、本村における文化活動の変遷記録であり、その公開は、地域の文化の発展に寄与しており評価される。地域の史料情報を確実に伝えることは、次世代が地域の歴史を学ぶ上で大切なことである。デジタル化された本村の貴重な歴史資料が国内外多くの方に視聴されることを望む。</p> |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                 |
|----|-----------------|--------------------------------|-----------------|
| 35 | 事業名             | 陶芸研修所事務運営事業                    | 決算書 P. 333      |
|    | 担当部署            | 生涯学習課文化センター係                   | 事業費 3,568,774 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実         |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展   |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要          | 生涯学習及び文化活動の拠点である陶芸研修所を活用し、広く村民に「やちむんの村」であることを知ってもらう。<br>伝統工芸であるやちむんを体験し学ぶことでやちむんの普及拡大と生涯学習の充実を図る。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 令和6年度取組内容（計画） | 陶芸研修所は、生涯学習及び文化活動の拠点として活用し、多くの村民がやちむんに親しむ中からやちむんの普及拡大に取り組む。今年度は、5月から新事業として、ゆんたんざ子どもやちむんクラブ、7月末に親子やちむんクラブを開催し、より一層やちむんの普及拡大を目指す。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 令和6年度取組状況（成果） | ふれあい交流館自主事業、夏のわくわく研究所連動企画としての親子やちむん教室、ふれあい交流館自主事業として、一般向けやちむん体験教室を実施した。また、新事業として、ゆんたんざ子どもやちむんクラブを2期に渡り実施し、保育所のやちむん教室も実施した。<br>体験教室後、1組のサークルが設立された。<br>利用実績は、以下のとおり<br>講座等：延べ450名（7教室）<br>サークル：延べ646名※令和6年度に加入した団体含む。<br>※令和6年度のサークルは、1団体加入で4団体<br>保育所：延べ40名（2園） 行政：6名<br>一般貸館：198名（団体3、個人7）<br>合計1,340名<br>雨漏り等躯体老朽化対策については、改築等に向けて村内陶芸家との協議を行い、建設計画を策定した上で、移転新築等について取り組むこととなった。 |
| 自己評価          | B 計画どおりの成果があった。<br>開催した講座等へ多数の応募があった。体験教室から1組のサークルが設立されたほか、ゆんたんざ子どもやちむんクラブ受講生から3名、「全国こども作陶展 in かさま」に出展することができた。                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 課題            | 陶芸研修所の躯体が老朽化しており、建替えに向けた取組について、村内陶工との協議を要する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|                             |                                                  |
|-----------------------------|--------------------------------------------------|
| 次年度以降の<br>取 組 内 容<br>(課題対応) | 関係課、村内陶工と意見調整を行い、令和８年度以降の建設計画の策定、工事に向けた取組を進めて行く。 |
|-----------------------------|--------------------------------------------------|

|                        |                                                                                                                           |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学 識 経 験 者<br>か ら の 意 見 | 親子やちむん教室、やちむん講座、サークル活動等が計画的に本村陶芸研修所で実施されたことは、「やちむんの村」の普及に貢献しており評価される。陶芸研修所は、本村の「やちむん」の継承・発展に必要な施設と考える。村陶芸研修所の新築・移転へ支援を望む。 |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                 |
|----|-----------------|--------------------------------|-----------------|
| 36 | 事業名             | 子ども文化育成事業                      | 決算書 P. 339      |
|    | 担当部署            | 生涯学習課文化センター係                   | 事業費 1,819,200 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさのあるひとの学び育ち                | 地域文化の創造発展       |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展   |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                       |  |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要                     | 児童生徒の伝統芸能への理解、関心を高めるため、赤犬子子ども三線・箏・太鼓クラブの開催。小学校の文化的クラブ（三線・箏・茶道・琉舞）活動への講師派遣等を行う。                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                       |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | 村内各小・中学校に対し赤犬子三線・箏・太鼓クラブの募集を行い5月初旬から翌年の3月まで毎週土曜日を基本に稽古を行う。それぞれの力量に合わせてクラス分けを行い、全員で参加する「読谷まつり」や文化協会主催の「子ども文化祭」等への出演を目標としている。講師派遣については各小学校より外部講師派遣依頼を受け講師派遣を行う。                                                                                                     |                                                                                                                                                       |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | 赤犬子三線・箏・太鼓クラブは全38回（太鼓のみ34回）開催し申込者数は、158名。延べ5,073名で内訳は、三線延べ3,756名、箏延べ726名、太鼓591名。読谷まつり、子ども文化祭へ出演し、年度末に発表会を実施した。<br>5小学校への講師派遣を行い、参加人数は延べ688名で内訳は、渡慶次小が三線4回延べ44名、茶道5回延べ60名、琉舞4回延べ12名、読谷小が三線5回延べ140名、喜名小が三線6回延べ54名、古堅小が三線7回延べ98名、古堅南小が三線7回延べ77名、箏7回延べ70名、昔遊び7回延べ133名 |                                                                                                                                                       |  |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                                                                                                                 | 計画どおりの成果があった。                                                                                                                                         |  |
|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 赤犬子子どもクラブ及び学校クラブ派遣の講師調整、事務調整は、予定通り行い、事業実施することができた。                                                                                                    |  |
| 課題                       |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 低学年（1.2年生）の育成指導に苦慮しており、読谷まつりの受け継ごう読谷（ふるさと）の心までに斉唱5曲の習得をさせることが課題（渡りぞう、秋の踊り、安波節、子守節、安里屋ユンタ）<br>太鼓クラスは受講希望が多く、全希望者を受け入れることができなかった。受講希望者多数の場合は楽器確保に課題が残る。 |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 引き続き、1年生は受講時に保護者同伴で受講してもらい、工工四の理解に取り組んでもらう。<br>太鼓の確保は、自治会及び村内演奏者から借用することで当面の間対応することとしたが備品購入の検討が必要<br>まなびフェスタで笛づくり体験を実施し、好評だったため令和7年度より笛クラスを新設する。      |  |

|                                |                                                                                                                                              |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>赤大子子どもクラブ及び各小学校のクラブ活動（三線・箏・太鼓）に講師を派遣し、練習したことを「読谷まつり」中で発表することは、地域文化の振興に大きく寄与しているものと評価される。今後とも本村の多くの子ども達が地域文化芸能に触れ、親しむことができるよう支援の継続を望む。</p> |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                 |
|----|-----------------|--------------------------------|-----------------|
| 37 | 事業名             | 鳳ホール自主事業                       | 決算書 P. 339      |
|    | 担当部署            | 生涯学習課文化センター係                   | 事業費 5,791,899 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 生涯学習の充実         |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展   |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                   |  |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要                     | 鳳ホールを中心に「民俗芸能祭」「創作子どもミュージカル」や文化事業等の誘致を行うことにより優れた芸術を村民が鑑賞する機会をつくる。また、各地域に伝わる伝統芸能の保存・継承に努めていく。                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                   |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 第12回民俗芸能祭及び創作子どもミュージカルワークショップの実施                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                   |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | <p>第12回目を迎える民俗芸能祭は、8団体より130名が出演し、400名の観客の前で各字に伝わる伝統芸能を披露し、継承と保存の一助となった。</p> <p>ミュージカルワークショップは、26名が応募し、全3回に延べ56名が参加。舞台での表現の基礎について学ぶとともに、令和7年度事業の創作子どもミュージカルへの参加を促し、11名が参加を希望した。</p> <p>地域伝統芸能保存事業については文化振興課と協議し、引き続き生涯学習係で行い、成果物（映像記録）について文化振興課で保管を行うこととなった。また、令和7年度に向けた助成金の申請を行い、楚辺自治会のイリベシ、高平良万歳が内定を受けた。</p> |                                                                                                                                                                   |  |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 計画どおりの成果があった。                                                                                                                                                     |  |
|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>ミュージカルに向けたワークショップを行い、歌や音楽・ダンスを通して、自己を表現する楽しさを学ぶことができた。</p> <p>村民芸能祭を開催する事で地域に継承される伝統芸能を披露することができた。</p>                                                         |  |
| 課題                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>民俗芸能祭は文化的交流、出演団体の増加を目的に、近隣の他市町村の自治会にも参加を呼びかけることを検討したい。</p> <p>ミュージカルワークショップは、事業完了後に創作子どもミュージカルに継続して参加する人数を増やすため、現在の手法に加え、当館の講座を受講した児童へ参加を呼びかけるなどの手法を検討したい。</p> |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>民俗芸能祭は、近隣自治体への参加の呼びかけを行い、出演団体を増加を図る。</p> <p>創作子どもミュージカルはダンス教室受講者が参加する好循環が生まれていることから、引き続き他の小中学生を対象とした講座の受</p>                                                   |  |

|  |                                                                                        |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>講生へも参加の呼びかけを行う。</p> <p>地域伝統芸能保存事業（映像記録保存事業）について、楚辺区や委託業者との連携を密に行い映像記録について取組を行う。</p> |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------|

|                                |                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>創作子どもミュージカルワークショップが計画どおり実施され、出演した子ども達が自己表現する楽しさを学ぶことができ評価される。また、民族芸能祭は伝統芸能の保存に寄与し成果があり評価される。今後とも多くの団体・子ども達が民族祭やミュージカルへ参加・挑戦できるよう学校、各社会教育団体等と連携し広報の工夫を望む。</p> |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                 |
|----|-----------------|--------------------------------|-----------------|
| 38 | 事業名             | 博物館展示事業                        | 決算書 P. 341      |
|    | 担当部署            | 文化振興課文化振興係                     | 事業費 1,923,726 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 地域文化の創造発展       |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展   |

|                          |                                                                                                                                                                                       |               |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 文化活動及び生涯学習に関する展示の充実を図り、地域文化・芸術の振興を目的とする。来訪者の歴史・文化・芸術・自然に対する関心と理解を深め、生活文化の向上をめざす。読谷村への認識を高め、「文化村」読谷村をアピールし、地域の文化振興に寄与する事で、村民（児童生徒）に誇りと自信を与え、創作意欲の向上を図る。                                |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | ①ユンタンザミュージアム常設展示の管理・展示替え<br>②ユンタンザミュージアム企画展の企画・運営                                                                                                                                     |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | 企画展観覧者数<br>「豊里友行写真展」1,085名<br>「比謝川水系のグスク」4,295名<br>「読谷アンデパンダン展」2,234名<br>「資料館と読谷まつりの50年展」4,131名<br>「ゆんたんざの芭蕉展」2,277名<br>「読谷児童生徒作品展」2,353名<br>「読谷やちむん展」4,898名<br>（年間を通しての観覧者数は28,477名） |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                                     | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | 年間を通しての観覧者数は28,477名（前年比2,482名増）、満足度についてのアンケートでは、「よかった」または「とてもよかった」と回答した割合が、企画展が98.1%（前年比0.8%増）、常設展では92.2%（前年比1.6%増）であった。                                                              |               |
| 課題                       | アンケートで「展示の文字が小さい」、「触れる展示がよかった」などのご意見をいただいた。                                                                                                                                           |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 令和7年開催予定の「戦後80年関連展示」、「池原ケイ子読谷山花織展」、その他の企画展において、アンケートでいただいた展示に関するご意見を踏まえた展示を行う。                                                                                                        |               |

|                                |                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>各企画とも計画通り実施され、利用者評価で展示（92％）、企画展示で（98.1％）の方が「とてもよかった」となっており、文化・芸術の振興に寄与したと評価できる。ユンタンザミュージアム公式サイトは、国内外多くの方が閲覧・観覧され文化観光推進の役割を担っている。今後とも多くの方々が読谷村の文化・歴史・芸術・自然に興味を持てられるよう継続的な展示・企画展の取り組みと発信を望む。</p> |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 39 | 事業名             | 博物館教育普及事業                      | 決算書 P. 343       |
|    | 担当部署            | 文化振興課文化振興係                     | 事業費 13,613,652 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 地域文化の創造発展        |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展    |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要          | 村民に読谷村の歴史・文化・芸術・自然を理解してもらい、村民としてのアイデンティティを確立してもらうことによって、これからの村づくりに寄与する人材を育成する。また、村外の方には読谷村の魅力を紹介し、読谷村の理解者になっていただくことを目的とする。                                                                                                                                                                           |
| 令和6年度取組内容（計画） | ①座喜味城跡周辺自然調査の実施と普及用コンテンツの作成<br>②講座の企画・運営<br>③年報・紀要の発刊<br>④実習生の受け入れ<br>⑤ミュージアム運営委員会の開催                                                                                                                                                                                                                |
| 令和6年度取組状況（成果） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・座喜味城跡周辺の環境調査（植物）を行った。</li> <li>・講座は、「未就学児向けワークショップ」（参加者 22 名）、「厨子甕」（13 名）、「ハジチ」（33 名）、「中学生陶芸体験」（6 名）、「野鳥観察会」（20 名）を開催した。</li> <li>・中学生職場体験 3 名、大学生インターンシップ 1 名、学芸員実習生 4 名を受け入れた。</li> <li>・令和5年度年報・紀要第 48 号を発刊した。</li> <li>・ミュージアム運営協議会を 1 回開催した。</li> </ul> |
| 自己評価          | <p>C 計画どおりに実施したが、成果には至らなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座喜味城跡周辺の環境調査（植物）を行ったが、普及コンテンツ（ハンドブック）が未完成である。</li> <li>・講座は、アンケート回答者のうち 9 割以上が講座の内容を「良かった」または「とても良かった」と評価した。ほかにも刊行物や実習生の受入などをおして、読谷村の歴史・文化・自然や、ユンタンザミュージアムの取組を周知し、読谷村の理解者を増やすことができた。</li> </ul>                             |
| 課題            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・座喜味城跡周辺の自然環境調査の普及コンテンツが、調査員の突発的な事情により未完成である。</li> <li>・講座では、テーマごとに申込人数の偏りが大きいことから、もともと関心が高い層にしかアプローチできていないことが考えられる。</li> </ul>                                                                                                                               |

|                             |                                                                                                                          |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 次年度以降の<br>取 組 内 容<br>(課題対応) | 座喜味城跡周辺の自然環境調査の普及コンテンツが未完成のため、引き続きこの作業に取り組む。<br>また、講座参加者を増やすため、講座を開催するだけでなく、テーマそのものの周知を併せて行い、これまで用いていない広報の方法も試みていく必要がある。 |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                        |                                                                                                                                                           |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学 識 経 験 者<br>か ら の 意 見 | 各企画講座とも計画どおり実施することができ成果があった。参加者アンケートでは9割以上の方から「とても良かった」との回答があり、多くの方が本村の自然・文化に親しむことができ評価できる。講座参加者が増えるよう広報の工夫が必要である。座喜味城跡周辺の植物ハンドブックの発刊ができるよう今後も調査作業の継続を望む。 |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                    |
|----|-----------------|--------------------------------|--------------------|
| 40 | 事業名             | 博物館管理運営事業                      | 決算書 P. 345         |
|    | 担当部署            | 文化振興課文化振興係                     | 事業費 41, 248, 207 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 地域文化の創造発展          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展      |

|                          |                                                                                                                                                                      |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要                     | <p>歴史・文化資源を保全し、地域文化や生涯学習・社会教育、地域振興の中核的拠点として博物館運営の向上に資する。</p> <p>資料の収集・整理・記録・保存・活用といった博物館機能のみならず、座喜味城跡のビジターセンターとしての役割も担うことから、国内外からの来館者が快適に利用できるよう適切な施設運営や保守管理を行う。</p> |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 世界遺産座喜味城跡の麓に建つミュージアムとして、座喜味城跡のみならず沖縄・読谷村の魅力的な歴史・文化・芸術を広く紹介するために、南側駐車場を供用開始し、利用者が快適に利用・見学できる環境づくりに取り組んだ。また、安全性を確保するために施設・整備の法定検査・清掃・警備等の業務委託を通して施設管理・保守に努める。          |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | 多言語パンフレットの一部修正を行って配布したことで、来館者へさらに正確な歴史・文化の普及に努めた。また、継続してタブレット端末（多言語対応）を貸出し、展示内容の理解につなげた。施設を清潔に保ち快適な環境を提供でき、来訪者から高評価が得られた。                                            |
| 自己評価                     | <p>B 計画どおりの効果があった。</p> <p>施設・設備の維持管理を適切に行った。機械設備の修繕は、補正予算・予備費等から費用を確保し修繕を行った。</p>                                                                                    |
| 課題                       | 機械設備の経年劣化による不具合が多く発生している。状況によっては利用の制限をかけた箇所があった。また、躯体からの雨漏りや室内外の温度差による結露等が複数箇所で発生しており引き続き対応を要している。                                                                   |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 施設修繕や故障は不具合発生後の対応になるため、日頃より職員間で情報共有を行い、前もっての予算計上につなげる必要がある。また、来館者に好評である御城印等のグッズも在庫管理に努め、物品購入費等を十分に確保したい。                                                             |

|                        |                                                                                                                               |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学識経験者<br/>からの意見</p> | <p>多言語パンフレットは、本村の歴史・文化の普及と利用者の便宜性の向上に寄与するもので評価される。史実に基づく正確な歴史・文化の情報が理解促進には不可欠であり伝える工夫は大切である。施設・備品の経年劣化に伴う計画的な修繕・入替の実施を望む。</p> |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                    |
|----|-----------------|--------------------------------|--------------------|
| 41 | 事業名             | 沖縄語保存継承事業                      | 決算書 P. 347         |
|    | 担当部署            | 文化振興課村史編集係                     | 事業費 16, 296, 911 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 地域文化の創造発展          |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展      |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 現在では、日常生活で会話することも少なくなった沖縄語（しまくとぅば）の保存継承に寄与するため、身近な生活の中で語られてきた沖縄語をわかりやすく学び、親しむためのデータベースを拡充し、普及継承活動（展示・講座等）を実施する。                                                                                                                                                                                                                                  |
| 令和6年度取組内容（計画）    | しまくとぅば辞典の発刊に向けた内容推敲（単語の意味や地域、用例の校正、品詞追加、写真選定等）を行い、その内容をウェブサイト上のデータベースに反映しその拡充を図る。併せて沖縄語に親しむための講座や展示、広報等の普及継承活動を実施する。                                                                                                                                                                                                                             |
| 令和6年度取組状況（成果）    | 辞典作成に向け精査した内容をウェブサイト「読谷村しまくとぅば単語帳」へ反映した（単語の意味・説明、15, 153 件の追記、修正）。ウェブサイトへのアクセス数 135, 291 回（前年度 91, 351 回）<br>しまくとぅば講座を 148 回開催し、延べ 2, 176 人（子ども 1, 847 人、大人 329 人）が参加した。<br>ミュージアムにて展示会を実施（8/22～10/1、入場者数 2, 269 人）、村広報誌にて毎月記事連載、コミュニティラジオへ 14 回出演、自治会や学校などからの依頼対応（しまくとぅば訳、講話、読み聞かせ、発表等）、しまくとぅば大会に係る指導、運営サポートを実施した。展示報告書、事業報告書を発刊し村内自治会、学校へ配布した。 |
| 自己評価             | A 計画を上回る成果があった。<br>辞典発刊に向け精査した内容をウェブサイト上に反映することで、情報が拡充され、前年度を上回る多大なアクセス数を得ている。前年度課題として挙げた連続講座に取組み、前年度を上回る参加者を得て、講座満足度 87%、もっと学びたいという割合も 87% と高い数値を示す。<br>村広報誌アンケートでもしまくとぅばに関する記事への反響が大きい。                                                                                                                                                        |
| 課題               | 講座、普及活動に関して多大な成果が得られた一方、それを担う職員への負担が増加した。持続可能な事業体制整備を必要とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | 講座、普及活動に関して持続可能な事業体制を整備し、その質を高める。<br>講座として、しまくとぅばを話す場を構築したが、今後は、その講                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|  |                                                                                                               |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>座参加者が伝える側（指導者）へとなるような取り組みにも注力する。</p> <p>体系的な理由から辞典に採用できなかった単語なども HP データベース上に反映、追加を行い、さらなるデータベース拡充を進める。</p> |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                |                                                                                                                                   |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>「読谷村しまくとうば単語帳」「村内の民話」「音声資料」の発信は、生涯学習や学校教育の場で幅広く活用され「うちなーぐち」保存・継承へ寄与し評価できる。今後とも「うちなーぐち」の伝承・保存に向け講座の実施等、継続的な普及活動・広報活動の継続を望む。</p> |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                                |                  |
|----|-----------------|--------------------------------|------------------|
| 42 | 事業名             | フィールドミュージアム整備活用事業              | 決算書 P. 347       |
|    | 担当部署            | 文化振興課文化振興係                     | 事業費 26,631,715 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち                 | 地域文化の創造発展        |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 子どもから大人まで誰もが生涯を通し「学び育ち合う」環境づくり | 地域文化の継承・創造・発展    |

|                          |                                                                                                                                                          |              |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 事業概要                     | グスク時代開始期の遺跡である大湾アガリヌウガン遺跡及び周辺環境を保全し、村の歴史や文化の魅力を発信するフィールドミュージアムとして整備・活用する事で、村内文化財及び文化観光施設の魅力の向上を図る。                                                       |              |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | 「大湾アガリヌウガン遺跡」を中心とした読谷村「フィールドミュージアム整備活用事業」基本設計を作成し、後年の実施設計、整備工事へつなげる。                                                                                     |              |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | 指名競争入札を行い、読谷村「フィールドミュージアム整備活用事業」基本設計業務を文化財の保全や整備活用業務の経験ある事業所と契約<br>知見者知見伺い（7回）、関係各所意見交換（2か所）、関係部署調整会議（2回）打ち合せ協議（9回）、先進地視察（鹿児島県）                          |              |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                        | 計画通りの成果があった。 |
|                          | 大湾アガリヌウガン遺跡の整備を中心に、村内各字に所在する文化財（現地・実物）等とユンタンザミュージアム（博物館）とを結び、生きた学習ができる環境を提供できる整備活用事業基本設計を作成できた。                                                          |              |
| 課題                       | 世界遺産座喜味城跡や大湾アガリヌウガン遺跡、村内の文化財等の情報発信等の周知方法を含め、歴史について楽しく学ぶことができる実施設計を構築する必要がある。                                                                             |              |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 世界遺産座喜味城跡や村内の文化財を結ぶ拠点としてユンタンザミュージアムを確立させ、大湾アガリヌウガン遺跡にフィールドミュージアムの周遊起点として活用できるガイダンスを整備し、新たな文化観光施設としての活用を図る。<br>（令和7年度実施設計、令和8年度整備工事、令和9年度～令和13年度各字文化財の整備） |              |

|            |                                                                                                                          |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| 学識経験者からの意見 | 大湾アガリヌウガン遺跡と本村各地の文化財等とユンタンザミュージアムを結ぶ整備活用事業は、本村の遺跡の保全と生きた学習ができる環境の提供につながり、基本設計ができたことは評価される。計画的に整備事業が進められ多くの村民に活用されることを望む。 |  |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

### 3 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり

#### 1) 健全な青少年の育成

|    |                 |                         |                  |
|----|-----------------|-------------------------|------------------|
| 43 | 事業名             | 青少年センター事務運営事業           | 決算書 P. 313       |
|    | 担当部署            | 学校指導課学校指導係              | 事業費 14,227,132 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち          | 子どもの教育の充実        |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり | 健全な青少年の育成        |

|                  |                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                             |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 青少年センター及び村立小中学校に教育相談員を配置し、相談活動を行う事で村立小中学校に在籍する児童生徒の心のケアを行い、対象児童・生徒が充実した学校生活を過ごせる状態を目指す。                                                                                                                               |                                                                                                             |
| 令和6年度取組内容（計画）    | 青少年センターでの教育相談、学校や関係機関との連携や情報交換、適応障害児の児童生徒への登校支援や学習支援を行う。<br>・村立小中学校への心の教室相談員の配置<br>・心理カウンセラーによる相談活動の実施                                                                                                                |                                                                                                             |
| 令和6年度取組状況（成果）    | ・青少年センター相談員7名（所長兼相談員1名、センター相談員1名、心の教室相談員5名）※中学校担当2名、小学校担当3名<br>・心理カウンセラー（臨床心理士及び公認心理師）1名週1回<br>・上記相談件数計（延べ件数）<br>青少年センター 631件、心理カウンセラー 107件（実人数 102名）<br>渡慶次小 395件、読谷小 226件、喜名小 122件、古小 306件、古南小 528件、読中 499件、古中 466件 |                                                                                                             |
| 自己評価             | B                                                                                                                                                                                                                     | 計画どおりの成果があった。                                                                                               |
|                  |                                                                                                                                                                                                                       | ・青少年センターにおいて学習支援を行い、支援対象の児童生徒が自主的な学習活動を行えるようになった。<br>・各学校における心の教室は、児童生徒が学校生活を過ごす上で話を身近に聞いてもらえる場所として活用されている。 |
| 課題               | ・青少年センター通所が困難な家庭への対応（送迎等）<br>・各小学校への心の教室相談員の1名配置<br>・（仮称）読谷村総合情報センター移転後の運用                                                                                                                                            |                                                                                                             |
| 次年度以降の取組内容（課題対応） | ・青少年センター通所が困難な家庭への対応<br>・（仮称）読谷村総合情報センター移転後の学習室の活用の充実                                                                                                                                                                 |                                                                                                             |

|                                |                                                                                                                          |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>不登校児童生徒や教室に入れない児童生徒が増加傾向にある中、センターや各学校における相談員の関わりを評価する。課題については、関係機関も含めて課題解決のための検討の場を設置し、可能なところから改善に向けた取組を推進して頂きたい。</p> |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                     |                             |               |
|----|---------------------|-----------------------------|---------------|
| 44 | 事業名                 | 地域学校協働活動推進事業                | 決算書 P. 315    |
|    | 担当部署                | 生涯学習課生涯学習係                  | 事業費 396,518 円 |
|    | 総合計画施策名             | ちむ清らさあるひとの学び<br>育ち          | 生涯学習の充実       |
|    | 教育振興計画<br>基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学び<br>を支える」環境づくり | 健全な青少年の育成     |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                                         |               |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 事業概要                     | 地域学校協働活動本部の設置（2中学校区）を行い、地域学校協働活動推進員2名を配置する。各種ボランティアの派遣実施、地域学校協働活動支援ボランティア養成講座の開催や人材の確保、学校支援ボランティアを学校の要望に応じてコーディネートする。                                                                                                                                                   |               |
| 令和6年度<br>取組内容<br>（計画）    | <ul style="list-style-type: none"><li>・学校支援ボランティア募集及び登録</li><li>・地域学校協働活動推進員の配置</li><li>・地域学校協働活動支援ボランティア活動</li><li>・地域学校協働活動本部会議の開催</li><li>・ボランティア養成講座の実施</li></ul>                                                                                                   |               |
| 令和6年度<br>取組状況<br>（成果）    | <p>学校からの要請に地域人材がボランティア活動を通して、学校・地域の連携を図り、学校教育支援活動が行えた。ボランティア養成講座では、ボランティア人材が事業を理解し関わることへつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校支援ボランティア 新規登録2名 延べ96名</li><li>・コーディネーター（地域協働活動推進員） 2名</li><li>・ボランティア活動 123回 延べ464名</li><li>・ボランティア養成講座 全1回 延べ16名</li></ul> |               |
| 自己評価                     | B                                                                                                                                                                                                                                                                       | 計画どおりの成果があった。 |
|                          | <ul style="list-style-type: none"><li>・校区の地域学校協働活動推進員が、学校からの依頼に対応できる学習支援ボランティアの派遣を行った。</li><li>・学校ボランティア養成講座を開催し、様々なニーズに対応できるように新たな地域人材の確保に努めた。</li></ul>                                                                                                               |               |
| 課題                       | 学校支援ボランティアに登録しているが、活動できていない人材の活用。                                                                                                                                                                                                                                       |               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 学校支援ボランティア登録者の交流会等を開催し、ボランティアとコーディネーターのつながりを持つ。                                                                                                                                                                                                                         |               |

|                                |                                                                                                                                             |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>地域学校協働推進員 2 名を配置し、推進員の努力もあり、学校教育活動に多くの学校支援ボランティアが関わっている。延べ 464 名がボランティア活動に参加するなど本事業が学校教育の向上につながっていることを評価する。今後、課題について工夫改善が図れることを期待する。</p> |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                     |                             |                 |
|----|---------------------|-----------------------------|-----------------|
| 45 | 事業名                 | 放課後子ども教室推進事業                | 決算書 P.315       |
|    | 担当部署                | 生涯学習課生涯学習係                  | 事業費 7,666,098 円 |
|    | 総合計画施策名             | ちむ清らさあるひとの学び<br>育ち          | 生涯学習の充実         |
|    | 教育振興計画<br>基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学び<br>を支える」環境づくり | 健全な青少年の育成       |

|                          |                                                                                                                                    |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要                     | 放課後の居場所として、地域の自治会等を活用し、子ども達の自由で安全安心な居場所を提供するもので、異年齢交流や地域の大人との触れ合いを通した「学び・育ち合い」の環境を地域で拠点づくりを行う。                                     |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 参加希望者を募り、村内11か所(横田、喜名、波平、長浜、大添、楚辺、大木、伊良皆、比謝、古堅、渡具知)でコーディネーター及び安全見守り隊を配置し実施する。                                                      |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | 自治会やスタッフの皆さんと連携を図り安全に実施し、遊びや学習を通した「学び・育ち合い」が行われ、子どもの成長に貢献できた。<br>・実施回数延べ784回 延べ8,157名、児童の登録者数202名<br>・コーディネーター 8名<br>・安全見守り隊登録 58名 |
| 自己評価                     | B 計画どおりの成果があった。<br>地域の見守りボランティアと、安全安心な居場所づくりに取り組めるよう定期的に協議を図り、活動を支援した。                                                             |
| 課題                       | 各わんぱく広場の特色を活かした活動が展開されている。活動内容や実施方法等の情報交換をスタッフでこまめに行い、広場の環境を整えていくようにスタッフとの更なる連携を行う。実施場所の拡充をおこなう。                                   |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | ・放課後こどもプラン(文部科学省が目指している)中で、放課後児童クラブとの連携方法も関係課と意見交換等行う。<br>・子ども達の放課後の実態を踏まえ、保護者のニーズにも対応できるように、事業運営を検証し今後の方向性を探す。                    |

|                |                                                                                                                                                       |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者<br>からの意見 | 各地域公民館を利用して実施された「わんぱく広場」では、多くの子ども達の参加があり、安心安全に過ごせる「居場所の確保」ができた。また、異年齢との交流から「社会性の育成」にもつながり目標が達成されたものと評価される。各スタッフや自治会からの情報を共有しあい方向性を同じに実施できるよう助言・支援を望む。 |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                         |              |
|----|-----------------|-------------------------|--------------|
| 46 | 事業名             | 村子ども会交流事業               | 決算書 P. 321   |
|    | 担当部署            | 生涯学習課生涯学習係              | 事業費 37,081 円 |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち          | 生涯学習の充実      |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり | 健全な青少年の育成    |

|                          |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                             |  |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事業概要                     | 歴史や文化、生活環境の異なる地域との様々な交流を通して、他者理解やコミュニケーション能力の向上を図り、未来の担い手育成を行う為に県外の子ども会育成連絡協議会との相互交流を行う。                                                                                         |                                                                                                                             |  |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | <ul style="list-style-type: none"><li>・岐阜県白川村子ども会育成協議会との交流が終了となったことにあわせ、次の交流先を選定する。</li><li>・村内小学校5・6年生及び中学生を対象に、1泊2日の伊江島民泊交流を子ども会育成連絡協議会と共に行う。</li></ul>                        |                                                                                                                             |  |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | <ul style="list-style-type: none"><li>・県外の教育委員会へ交流先へのアプローチを図り、山梨県北杜市の子ども達とオンライン交流会を行った。</li><li>・県内交流として、読子連と共催による「伊江島民泊交流」を実施した。また、ジュニアリーダークラブを継続開催することでリーダー育成につながった。</li></ul> |                                                                                                                             |  |
| 自己評価                     | C                                                                                                                                                                                | 計画どおりに実施したが、成果には至らなかった。                                                                                                     |  |
|                          |                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>・いくつかの教育委員会へアプローチを図ったが、決定には至らなかった。</li><li>・交流先のアプローチとして山梨県北杜市とオンライン交流を行った。</li></ul> |  |
| 課題                       | 交流先を選定・決定し、交流事業を再開する。                                                                                                                                                            |                                                                                                                             |  |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 日吉津村と読子連との夏の交流を予定している。引続き、相互交流が可能な地域を模索し、県外交流事業の再開にむけ取り組む。                                                                                                                       |                                                                                                                             |  |

|            |                                                                                                                                                   |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 読子連では、伊江島民泊交流が実施され、共同作業から社会性や協調性、リーダーシップを育むことができた。また、山梨県北杜市の子ども達との「オンライン交流」では、互いの文化や生活環境の違いを知ることで、互いが理解し合うことにつながった。2つの交流とも、子どもの健全育成に向け成果があり評価される。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

2) 地域とともにある信頼される学校づくりの推進

|    |                 |                         |                       |
|----|-----------------|-------------------------|-----------------------|
| 47 | 事業名             | 古堅南小学校校舎新增改築事業          | 決算書 P. 289            |
|    | 担当部署            | 教育総務課施設係                | 事業費 414,991,724 円     |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち          | 子どもの教育の充実             |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり | 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 |

|                          |                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要                     | 古堅南小学校は竣工（1979 年）から築 44 年以上が経過しており、老朽化及び将来児童増加による教室不足解消のため改築を行う。                                                                                                                               |
| 令和 6 年度<br>取組内容<br>（計画）  | 古堅南小学校校舎新增改築のために下記の事業を実施する。<br>・古堅南小学校屋外運動場及び外構 2 期工事修正設計業務、工事磁気探査委託業務、現場技術業務<br>・古堅南小学校屋外便所及び体育器具倉庫申請委託業務、工事監理委託業務、意図伝達委託業務<br>・古堅南小学校屋外運動場整備工事<br>・古堅南小学校外構 2 期工事<br>・古堅南小学校屋外便所及び体育器具倉庫新築工事 |
| 令和 6 年度<br>取組状況<br>（成果）  | 屋外運動場及び体育器具倉庫、外構 2 期（駐車場）工事を実施した事により、安心・安全な教育施設の確保が出来た。                                                                                                                                        |
| 自己評価                     | B 計画通りの成果があった。<br>工期限内に工事が完了することが出来た。                                                                                                                                                          |
| 課題                       | 外構 2 期工事において、緑地帯が設けられたが、今後学校側と維持管理について調整する必要がある。                                                                                                                                               |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 学校側の意向等を確認した上で、ハイビスカス通りなどの緑地帯について、雑草の維持管理に関する対策を講じる。                                                                                                                                           |

|            |                                                                                                                                       |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 新しい時代の教育を担う素晴らしい校舎が工期限内に完了できたことを評価する。恵まれた環境を最大限に生かし、未来を創造する教育が実践されていくことを期待する。課題にあげられた緑地帯の維持管理については、地域の力も巻き込んだ仕組みづくりにつながっていくことをお願いしたい。 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                         |                       |
|----|-----------------|-------------------------|-----------------------|
| 48 | 事業名             | 古堅小学校校舎新增改築事業           | 決算書 P. 291            |
|    | 担当部署            | 教育総務課施設係                | 事業費 48,773 円          |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち          | 子どもの教育の充実             |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり | 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 |

|                          |                                                                                                                                                                                                            |                 |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 事業概要                     | 古堅小学校は竣工（1976 年）から築 49 年以上が経過しており、老朽化及び将来児童数増加による教室不足解消のための改築を行う。                                                                                                                                          |                 |
| 令和 6 年度<br>取組内容<br>（計画）  | 古堅小学校新增改築事業のため下記の事業を実施する。<br>・古堅小学校校舎改築基本計画策定委託業務                                                                                                                                                          |                 |
| 令和 6 年度<br>取組状況<br>（成果）  | 国および県が推奨する「長寿命化」または「改築」の方針決定には時間を要し、地域懇談会の日程についても学校側との調整が難航したため、開催を次年度へ繰り越すこととなった。そのため、工期を次年度の 6 月 30 日まで延長し、最終の地域懇談会報告会を開催したうえで完了とする予定である。<br>ただし、基本計画自体は概ねまとまっており、次年度以降に予定されている基本設計および実施設計への影響はないと考えられる。 |                 |
| 自己評価                     | D                                                                                                                                                                                                          | 計画どおりに実施できなかった。 |
|                          | 村の方針決定及び学校側との日程調整に時間を要し年度内の執行が厳しかった。                                                                                                                                                                       |                 |
| 課題                       | 村の方針決定には時間を要したが、今後の学校建築における方向性が定まり、一定の成果が得られた。<br>一方で、学校側との日程調整は勤務時間内に設定したものの、教員等の都合がつかず、参加者が少ない状況であった。<br>今後の基本設計や実施設計においては、現場の声を反映することが重要であるため、学校側にも他人事ではないことを周知し、積極的な協力を求めていく必要がある。                     |                 |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 今回策定される基本計画を基に基本設計及び実施設計を関係機関や学校と調整を行いながら事業スケジュール等の遅れが生じないように対応する。                                                                                                                                         |                 |

|            |                                                                                                                    |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 自己評価が「D」と厳しい結果になったが、要因を分析し今後の事業運営の改善につなげて頂きたい。基本設計や実施設計に現場の声を反映させたいという方針を評価する。管理職等にしっかりと趣旨を説明し、理解と協力を得られるようお願いしたい。 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|    |                 |                         |                       |
|----|-----------------|-------------------------|-----------------------|
| 49 | 事業名             | 中学校校舎等維持補修事業            | 決算書 P. 291            |
|    | 担当部署            | 教育総務課施設係                | 事業費 181, 192, 210 円   |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち          | 子どもの教育の充実             |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり | 地域とともにある信頼される学校づくりの推進 |

|                          |                                                                                  |              |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 事業概要                     | 古堅中学校の空調設備は、設置から 16 年以上経過した防音機器（空調）について、防衛補助事業（3 条）を活用し機器の復旧を行う。                 |              |
| 令和 6 年度<br>取組内容<br>（計画）  | 古堅中学校防音機器復旧のため下記の事業を実施する。<br>・古堅中学校防音機器復旧工事<br>・古堅中学校防音機器復旧工事監理委託業務              |              |
| 令和 6 年度<br>取組状況<br>（成果）  | 防音機器復旧工事を実施した事により、空調を改修し生徒の教育環境の改善が行われた。                                         |              |
| 自己評価                     | B                                                                                | 計画通りの成果があった。 |
|                          | 工期内に工事が完了することが出来た。                                                               |              |
| 課題                       | 空調使用期間を終えてからの施工で工期が足りないため授業時間中の施工が必要となった。債務負担行為等を行い夏休み期間での施工が望ましい。               |              |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>（課題対応） | 防衛補助事業（9 条）を活用した読谷中学校可動間仕切り改修工事実施設計業務を実施した事により、次年度は可動間仕切り改修工事を行い読谷中学校の教室不足解消を行う。 |              |

|            |                                                                                                                 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 空調設備は学びを保障する環境として不可欠である。事業が計画通り工期内に完了できたことを評価する。設備の維持管理で学校が担う部分についての説明はしっかりとお願いしたい。次年度の読谷中の事業が予定通り実施されることを期待する。 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

3) 新しい時代を展望した教育行政の充実

|    |                 |                         |                   |
|----|-----------------|-------------------------|-------------------|
| 50 | 事業名             | 家庭教育相談支援事業              | 決算書 P. 315        |
|    | 担当部署            | 生涯学習課生涯学習係              | 事業費 727,944 円     |
|    | 総合計画施策名         | ちむ清らさあるひとの学び育ち          | 生涯学習の充実           |
|    | 教育振興計画基本方針及び施策名 | 地域の誰もが参加する「学びを支える」環境づくり | 新しい時代を展望した教育行政の充実 |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要             | 気軽に子育ての相談を行える環境をつくり、適切な相談支援機関へつなぐ仕組みをつくり、孤立しない子育て環境や仲間づくりを行う                                                                                                                                                                                                        |
| 令和6年度取組内容(計画)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援講座、お父さんの子育て講座、子育てまーる（お楽しみ講座、子育てリサイクル会）、支援チームの学習会等を行う。</li> <li>・子育てまーるで、月2回子どもと保護者の交流を開催し、子育ての困りごと等の話を聞く機会とする。</li> </ul>                                                                                              |
| 令和6年度取組状況(成果)    | <p>家庭教育の充実及び支援として、様々な工夫を行い村民が参加しやすい環境をつくることできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援講座 6回 延べ109名</li> <li>・お父さんの子育て講座 2回 延べ159名</li> <li>・お楽しみ講座 3回 子ども延べ22名、大人延べ28名</li> <li>・子育てリサイクル会 21回 子ども延べ138名、大人延べ261名</li> <li>・支援チームの学習会 3回延べ20名</li> </ul> |
| 自己評価             | <p>B 計画どおりの成果があった。</p> <p>子育て応援講座、子育てまーる講座を開催したほか、子育てゆんたく個別相談会を通して1人で悩んでいる方へも対応できるよう取り組んだ。</p>                                                                                                                                                                      |
| 課題               | 家庭教育支援員が来場者と対面する時、悩みごと等相談の引き出しとその後の対応（関係する課や担当へ）つなぐ方法を意識し、実践できるようにする。                                                                                                                                                                                               |
| 次年度以降の取組内容(課題対応) | 家庭教育支援チームの学習会の内容企画調整を行い効果的な学びを行うほか、悩みごとを抱えた保護者に事業の存在を知ってもらえるよう周知を図る。                                                                                                                                                                                                |

|            |                                                                                                                         |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学識経験者からの意見 | 本事業に係るどの取組も参加人数が増えている。特にお父さんの子育て講座の受講者が増えていることは時代のニーズを捉えた取り組みと評価する。課題への対応については、支援チーム内でしっかりと共有、検討し改善に向かう対応が推進されることを期待する。 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 4 物価高騰対策関連事業

|    |                     |                 |                  |
|----|---------------------|-----------------|------------------|
| 51 | 事業名                 | 学校給食食材費物価高騰支援事業 | 決算書 P. 359       |
|    | 担当部署                | 給食調理場給食係        | 事業費 18,322,468 円 |
|    | 総合計画施策名             | —               | —                |
|    | 教育振興計画<br>基本方針及び施策名 | —               | —                |

|                          |                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業概要                     | 学校給食の食材費における物価高騰分に関する支援を行い、保護者の経済的負担を増やすことなく、これまで通り児童生徒へ安全安心な学校給食の安定提供を行う。                                                                                                                                                                           |
| 令和6年度<br>取組内容<br>(計画)    | 急激な物価高騰の状況において、学校給食に係る食材費が高騰していることから、令和6年10月から令和7年3月までの学校給食における食材費高騰分の支援を行う。<br>小学生 1食当たり 40 円 中学生 1食当たり 43 円                                                                                                                                        |
| 令和6年度<br>取組状況<br>(成果)    | 令和6年10月から令和7年3月までの給食費の補助を行った。<br>① 5 小学校補助額 11,889,840 円 (2,830 人)<br>渡慶次小学校 2,336,360 円、読谷小学校 2,907,320 円、<br>喜名小学校 2,053,560 円、古堅小学校 2,226,440 円、<br>古堅南小学校 2,366,160 円<br>② 2 中学校補助額 6,432,628 円 (1,448 人)<br>読谷中学校 3,875,203 円、古堅中学校 2,557,425 円 |
| 自己評価                     | B 計画どおりの成果があった。<br>保護者の経済的負担を伴わずに村立小中学校に通う児童生徒に対して、安全安心で栄養バランスの取れた学校給食を安定して提供することができた。                                                                                                                                                               |
| 課題                       | 物価高騰が続いている中、国が示す学校給食摂取基準を満たす給食が提供できるよう、工夫しながら献立作成を行う必要がある。                                                                                                                                                                                           |
| 次年度以降の<br>取組内容<br>(課題対応) | 令和7年度より学校給食費の引上げを行い安定した給食提供を行う。<br>令和7年度からの給食費<br>・小学生 4,700 円から 5,400 円へ引上げ<br>(引上げた 700 円は村が補助)<br>・中学生 5,000 円から 5,800 円へ引上げ<br>(無償化、県 1/2、村 1/2 補助)                                                                                              |

|                                |                                                                                                                                               |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学 識 経 験 者<br/>か ら の 意 見</p> | <p>発達段階の児童生徒へ栄養バランスの整った給食を提供することは重要である。貧困家庭の割合が増加傾向にある中で、保護者の経済的負担に配慮した本事業が計画通り遂行できたことを評価する。物価高騰が今後も継続していくことが予想される中、保護者の負担を抑える事業の構築を期待する。</p> |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|